

17『ウルトラマリンブルー・クリスマス／プロキオン版』成井豊

○ジヤンル／ファンタジー
○ストーリー／昭和58年のクリスマスイブ。長野県笛田市で建設会社を経営している辺見鐘司は、自殺を決意して、町外れの川にやつてくる。橋から身を投げようとすると、横から誰かが飛び下りた！ 辺見はその人物を助けるため、慌てて川の中へ！ 次に目を開けると、辺見はバス停にいた。隣には、先に飛び下りた人物。その人物は、自分はプロキオンという名の天使で、辺見の自殺を止めようとして、誤って落ちたと言う。天使は辺見に、なぜ死のうとしたのか聞く。辺見は語る。そもそもの始まりは昭和36年、辺見が高校2年の時だった。：

○○出演者／男 7 + 女 8 || 計 15
上演時間／120分

登場人物

櫻 辺 辺 辺 辺 辺 辺
本 見 見 見 見 見 見
洋 雪 忠 友 義 碧
代 也 子 枝 一

辺長川平堀
見門地岡田
鈴秀健ゆ兵
花之夫か士
り郎

(鐘鐘喫堀不
司司茶田動
のの店の産
娘友店秘会
人主書社
長)

① 暗闇の中、バスがドアを閉めて、発車する音。明るくなると――
一九八三年十二月二十四日夜、バス停。辺見鐘司とプロキオンが立っている。

鐘司 プロキオン（周囲を見回して）えーと、ここは？
鐘司 監視所？

鐘司 地上の様子を監視する施設です。ここでは常時、一万人の天使が業務に当たっています。

鐘司 何が一万人だ。僕ら以外に誰もいないじゃないですか。
監視所は私たちの足の下、雲の下にあるんです。私もついさっきまでそこで仕事をしてたんですよ。
つまり、あなたも天使つてわけですか。

鐘司 だから、さつきからそう言つてるでしょう。私はあなたを助けるために、地上へ下りたんですね。
あなたのお名前は？
プロキオン。プロキオン。

漢字じやなくて、漢字はどう書くんです。
片仮名でプロキオンです。

鐘司

プロキオン

鐘司

でも、あなたはどこからどう見ても、日本人だ。普通、天使は西洋人で、背中に羽が生えてるはずだ。天使には階級というものがあるんです。私はまだ新米なので、階級は二級。一級にならないと、羽はもらえません。だったら、ここに一級の天使を連れてきてください。背中に羽が生えてる天使を。

そこへ、ベテルギウスがやってくる。背中に羽をつけている。

ベテルギウ

辺見鐘司さんですね？

鐘司

そうですが、あなたは？

ベテルギウ

初めてまして。この監視所の所長をつとめている、ベテルギウスです。

鐘司

その羽は本物ですか？

ベテルギウ

ええ、もちろん。私は一級天使なので、このサイズですが、階級が上がると、もつと大きくなります。

鐘司

そんなものをつけると、動きにくくないですか？

ベテルギウ

そうでもないですよ。見た目ほど重くないし、寝る時は外せるし。

鐘司

外せるんですか？当たり前でしょう。これをつけたままで、寝られると思いますか？ 背中が痛くて、一睡もできませんよ。

ベテルギウ

(鐘司に)これで信じてくれましたか？

鐘司

（手を叩いて）シリウス。

そこへ、シリウスがやつてくる。

シリウス
お呼びですか？

ベテルギウ
辺見さん、何か飲み物はいかがですか？

鐘司
鐘司
ベテルギウ
僕は喉は渴いてませんが。それはそうです。今のあなたには肉体がありませんからね。しかし、飲み物は喉を潤すだけではなく、心を寛がせる効果があります。

鐘司
シリウス
鐘司
シリウス
僕は日本茶がいいんです。[。]

シリウス
（シリウスに）狭山茶の高いやつがあつたでしよう。あれを淹れてきて。

シリウスが去る。

鐘司
ベテルギウ
本當にあるとは思いませんでした。日本茶。
見ておわかりの通り、私も天使になる前は日本人でした。たまにどうしても飲みたくなるんです。さて、辺見さん、そろそろ本題に入りたいのですが。本題と言いますと？
この度は、私の部下がとんでもない不始末をしてしまって、本当に申し訳ありませんでした。（頭を下げて）プロキオン。
(鐘司に)申し訳ありませんでした。（頭を下げる）

プロキオン

鐘司
ベルギウ

鐘司　ベルギウ
いきなり謝られても、僕には事情がよくわかつてないんですが。
説明します。一九八三年十二月二十四日午後十時三十七分、私は部下のプロ
キオンに対し、長野県笛田市へ急行し、辺見鐘司氏の自殺を食い止めるよう
に指示しました。プロキオンは直ちに、三隈川にかかる笛田橋へ急行。橋か
ら飛び下りようとするあなたに掴みかかった。
それは覚えてます。橋の上から川を覗き込んでいたら、いきなり誰かが後
ろから抱きついてきたんだ。

プロキオン 鐘司 プロキオン
それは私です。
僕は咄嗟に、相手の手を振り払った。
私は二メートルも撥ね飛ばされた。コンニヤロメーと思つて、もう一度飛び

鐘司 プロキオン 僕は横へ飛びのいた。
あなたが飛びのくのは見えたけど、体は急に止まれない。私は欄干に激突し

鐘司 プロキオン 僕は横へ飛びのいた。
あなたが飛びのくのは見えたけど、体は急に止まれない。私は欄干に激突して、頭から下へ落ちた。
僕はすぐに下を覗いた。白い服の男が水面で浮き沈みしながら流されていく。

プロキオン 鐘司 恥ずかしながら、金槌なんです。このままでは死んでしまう。僕は欄干に飛び乗り、川へ飛び込んだ。川の水はゾツとするほど冷たかつたけど、そんなの気にしてる場合じやない。十メートルほど先を流されていくあなたに向かって、必死で泳いだ。あなたのクロール、実に見事なフォームでした。あなたが金槌じやなくて、助かって。

プロキオン 恥ずかしながら、金槌なんですね。
鐘司 このままでは死んでしまう。僕は欄干に飛び乗り、川へ飛び込んだ。川の水
はゾツとするほど冷たかったけど、そんなの気にしてる場合じゃない。十メー
トルほど先を流されていくあなたに向かつて、必死で泳いだ。
プロキオン あなたのクロール、実に見事なフォームでした。あなたが金槌じやなくて、
助かつた。
鐘司 僕はあなたの体を掴むと、岸に向かつて、泳ぎ始めた。しかし、岸は遠く、

流れは激しかった。それでも必死で泳いで、泳いで、そして……。

プロキオン

ベテルギウ

鐘司
ベテルギウ

プロキオン

そこへ、シリウスがやつてくる。湯飲みを四つ持つてくる。

シリウス
ベテルギウ

お待たせしました。
ご苦労様。さき、辺見さん、お茶をどうぞ。
いただきます。（飲んで）うん、おいしい。死んだら何もかもおしまいかと思つてたけど、こんなにおいしいお茶が飲めるなんて。ひよつとして、お酒もあるんですか？

シリウス
鐘司
シリウス

ええ、もちろん。ここには大したものはありませんが、天国へ行けば、ありとあらゆるお酒が手に入ります。亡くなつた父にも会えますね？
ええ、地獄へ行つてなければ。

あなたは何とか岸に辿り着いた。と同時に、意識を失つた。
(鐘司に)あなたは川へ飛び込む前に、大量のアルコールを摂取していた。
そんな状態で真冬の川へ飛び込んで、全力で泳いだんですね。当然、心臓に急激な負担がかかつた。あなたは心筋梗塞を発症し、午後十時四十二分、心肺停止の状態に陥りました。つまり、死んだわけですか。
自分のせいで人を死なせるなんて、天使として許されざる行為です。この任務が成功すれば、一級天使に昇格して、羽がもらえる。そう思つて、功を焦つたに違ひありません。そうでしょう、プロキオン？
(鐘司に)本当に申し訳ありませんでした。(頭を下げる)

ベテルギウ

シリウス、あなたは口を閉じてなさい。さて、辺見さん、ここであなたにお願いがあります。今すぐ地上へ戻つていただきたいんです。

鐘司

でも、僕はもう死んだんですよね？

ベテルギウ

それはそうですが、そもそもあなたは今日死ぬべき運命ではなかつた。あなたが亡くなつたのは、あくまでもプロキオンのミスなのです。

プロキオン

（鐘司に）私と一緒に地上へ戻つてください。お願いします。

鐘司

申し訳ないけど、僕はこのまま天国へ行つてしまつたら、二度と地上へは戻れません。ご家族にもご友人に

ベテルギウ

も会えなくなるんですよ。

鐘司

それは仕方ありません。

ベテルギウ

仕方ないとは、どういふことです。

鐘司

僕は死んだ方がいい。その方が、家族や友人が幸せになるんです。僕を天国へ行かせてください。

プロキオン

（お願いします）それは困る。あなたがこのまま天国へ行つたら、私はあなたを殺したことになら。

プロキオン

（僕のことなど何も知らないくせに）なぜそういう言ひ切れるんですか。僕のことなど何も知らないくせに。

鐘司

（僕のことなど何も知らないくせに）なぜあなたがなぜ天国へ行きたいのか。

プロキオン

（僕のことなど何も知らないくせに）なぜあなたがなぜ天国へ行きたいのか。

鐘司

（僕のことなど何も知らないくせに）なぜあなたがなぜ天国へ行きたいのか。

ベテルギウ

（僕のことなど何も知らないくせに）なぜあなたがなぜ天国へ行きたいのか。

鐘司

（僕のことなど何も知らないくせに）なぜあなたがなぜ天国へ行きたいのか。

ベテルギウ

（僕のことなど何も知らないくせに）なぜあなたがなぜ天国へ行きたいのか。

約束しましょ。あえてくれませんか。あなたの話が納得できたら、次の天国行きのバスにあなたを乗せると。

鐘司

ベ
シリウス
ベルギウ

わかりました。（お茶を飲んで）あなた方を納得させるためには、少々長い話をしなければなりません。僕がどんなふうに生きてきたか、あなた方に知つてもらうためです。

シリウス、記録を取りなさい。

（紙とペンを示して）準備できます。

僕は一九四四年に長野県の笛田市で生まれました。

鐘司が出会った人々が次々と通りすぎていく。

鐘司

僕は一九四四年に長野県の笛田市で生まれました。笛田市は山に囲まれた、小さな町です。父は小さな建設会社を経営していました。僕は長男で、高校を卒業したら、父の会社に入り、ゆくゆくは跡を継ぐつもりでした。ところが、僕が十七歳の時、人類の歴史に残る大事件が起きたんです。それは、一九六一年の四月のことでした。

①一九六一年四月夕、鐘司の家。辺見義一が椅子に座って、新聞を読んでいる。

義鐘一司

ただいま。あれ、お父さん、今日は仕事は？
朝から風邪気味でな。忠子に任せて、早退けさせてもらつた。
医者へは行つたの？
風邪ぐらいで行くもんか。今夜たっぷり寝れば、すぐに元に戻る。

そこへ、辺見友枝がやってくる。

友枝一司

あら、鐘司、今日は早かったんだね。野球部の練習はなかつたの？
あつたけど、出なかつた。僕は野球部を辞めたんだ。

友鐘司

他にやりたいことが見つかったんだ。でも、おまえはエースだろう？この前の大会で準決勝まで行ったのは、おまえが連戦連投したからじゃないか。今度は絶対に優勝するんだって、張り切つてたのに。

監督にはこつぴどく叱られたよ。でも、最後はわかつてくれた。それで、やりたいことっていうのは何なんだ。

友鐘司

勉強だよ。何を今さら。おまえは小学校の頃から成績がよかつた。高校に入つてからだつて、学年で十番より下に落ちことはないじやないか。一番にならなきやダメなんだ。それも、ぶつちぎりの一番に。

友鐘司

何のために。東大へ行つて、学者にでもなろうつて言うの？

お母さん、今朝の新聞は読んだ？ガガーリンの記事。

読んだ。ロケットで宇宙へ行つた人だろう？ソビエト連邦の宇宙飛行士ユーリ・ガガーリン。ボストーク一号に乗つて、

世界初の有人宇宙飛行を成し遂げたんだ。ボストーク一号は地球の周回軌道

を一時間五十分で一周した。地上へ帰還した後、ガガーリンはこう言つたん

だ。地球は青かつた。

友鐘義
枝司一

僕が言いたかったのに。まさか、おまえもガガーリンみたいに、宇宙へ行きたいって言うんじゃないだろうね？おまえもガガーリンみたいに、宇宙へ行きたいって言つたんだ。地球は青かつた。

でも、作ることはできる。左の耳が聞こえない。ロケットに乗るのは無理だと思

鐘司

義
鐘
司

義
枝
一

義
鐘
司

そこへ、辺見雪也がやつてくる。

図書室で調べたんだ。日本では、今から九年前に、東大の糸川英夫教授が生産技術研究所っていうのを作つて、ロケットの開発を始めた。今月の初めには、日本初の三段式ロケットの発射に成功した。近い将来、日本のロケットも人間を乗せて、宇宙へ行く。それを僕は作りたいんだ。

うちの会社はどうなる。

そうだよ、鐘司。おまえは長男なんだから、お父さんの跡を継ぐ責任があるだろう。

それはそうだけど、僕は家より、ロケットが作りたい。

うちの会社はどうなつてもいいと言うのか。

雪
也

お父さんの跡は僕が継ぐよ。だから、お兄さんは自分のやりたいことをやればいい。

横から口を出すな。

義
一
雪
也
友
枝

でも、これは辺見家の問題だろ？ だつたら、僕にも発言する権利はある。偉そうなことを言うんじやないよ。おまえに社長の仕事がつとまるわけない。成績だつて、下から数えた方が早いじやないか。

僕もお兄さんと一緒に勉強する。お兄さんみたいに、学年で十番以内に入つてみせるよ。（義一に）だから、お兄さんの言う通りにしてあげてよ。

雪
鐘
司

お兄さんの左耳が聞こえなくなつたのは、僕のせいだ。川に落ちた僕を助け

ようして、流れに巻き込まれて。だから、今度は僕がお兄さんを助ける。

夷一

義 雪 義
一 也 一

鐘 義 鐘
司 一 司

義一が去る。

ようして、流れに巻き込まれて。だから、今度は僕がお兄さんを助ける。
大きな口を叩くな。おまえなんかに社長は無理だ。
頭から決めつけないでよ。僕は努力する。
(鐘司に) 自分の責任を弟に押しつけるなんて、みっともないとは思わない
のか。
すみません。でも、僕はどうしてもロケットを作りたいんです。
俺の言うことが聞けないなら、一切協力はしない。大学の学費は自分で払え。
わかつたよ。

友枝 雪鐘司 友枝

友枝・雪也が去る。

鐘司 プロキオン

(鐘司に) つまり、ガガーリンがあなたの人生を変えたというわけですか。ええ。でも、本当のことを言うと、僕は春の大会で肩を傷めたんです。監督

からは「もう投手は無理だ、外野手に転向しろ」って言われていた。

プロキオン
ベルギウ

つまり、逃げたわけですか。
プロキオン、そんな言い方をしたら、失礼ですよ。

いや、そう言われても仕方ない。もし肩が万全だったら、野球を辞めようなんて思わなかつたかも知れません。でも、当時の僕は、このまま続けるべきかどうか迷つていた。ガガーリンのニュースは、僕にとつて救いだつた。これだつて思つたんです。

ベルギウ
プロキオン
ベルギウ
シリウス

口ケツトには前々から興味があつたんですか？
いいえ、全然。

それならどうしてこれだと思つたんです。
僕はピッチャーだつたんですが、バッティングも好きだつた。ホームランを打つた時の気分は最高でした。青い空へ向かつて舞い上がりしていく白い球。あの球を宇宙まで飛ばすことができたら凄いよなつて思つたんです。
それで、次の日から猛勉強？
ええ。それと同時に、学費を稼ぐために、アルバイトを始めました。
どこでどんな仕事を？
笛田駅の喫茶店「オードリー」でウェイターの仕事を。

②一九六一年四月夕、喫茶店。川地健夫がやつてくる。

遅かつたな、辺見君。
すみません、川地さん。図書室で勉強してたら、五時を過ぎたのに気づかなくて。

鐘司川地

川地

川鐘川鐘川鐘

地司地司地司

遅刻した分は給料から引いておくから、気にしなくていい。それより、今日もファンがお待ちかねだぞ。また彼女たちですか。

鐘司が平岡ゆかり・ミエ・マリに歩み寄る。川地が去る。

鐘司
ゆかり

君たち、また来たのか？先生に見つかつたら、叱られるぞ。

そう言う辺見先輩はどうなんですか？うちの高校、アルバイトは禁止でしょう？

僕は教頭先生に頼んで、特別に許可をもらつたんだ。それより、ご注文は？

チヨコパフェとバナナパフェとストロベリー・パフェ。

毎日甘いものばかり食べて、よく飽きないな。値段も高いのに。

実は、ゆかりのおごりなんです。ゆかりはお金持ちだから。
私じゃなくて、伯父さんよ。（鐘司に）私の伯父は堀田不動産の社長なんです。伯父には子供がないから、私を娘みたいにかわいがつてくれて。遊びに行くたびにお小遣いをくれるんです。

そこへ、長門秀之がやってくる。

鐘 長 門

鐘 長 門
司 工 門 長
司 地 川 鐘

鐘 長 門

鐘 長 門
司 工 門 長
司 地 川 鐘

そこへ、川地がやつてくる。

鐘司、注文を取つたら、さつさと言いに来いよ。
あ、ごめん。チヨコパフェとバナナパフェとストロベリーパフェだつて。
野球部のエースだつたか何だか知らないけど、あまりいい気になるなよ。仕事中に私語は謹め。
ちよつと、辺見先輩を苛めないでよ。
苛めてるんじやない。先輩として、注意してること。
あら、お客様に向かつて、その口のきき方はないんじやない?
そうだそうだ!
うるさい!
静かにしろ!

鐘 長 門

鐘 長 門
司 工 門 長
司 地 川 鐘

長門君、お客様に向かつて、その口のきき方は何だ。
悪いのは僕です。長門君は僕に注意しようとしていただけで。
うちの店の名前はオードリー。オードリー・ヘップバーンのようになんにシックでエレガントな店といふのが売り文句なんだ。
シックでエレガントであつてほしい。
努力します。
（川地に）俺もです。

辺見先輩はともかく、長門さんには難しいんじゃないかな。

何だと? 待ちなさい、長門君。シックでエレガントなウェイターは「何だと?」なんて言わない。「何と仰いましたか?」と言うんだ。はい、復唱。

鐘 長 門

鐘 長 門
司 工 門 長
司 地 川 鐘

（川地に）俺もです。

鐘司

長門、おまえ、今、厨房で何をしてた？

何と仰いましたか？

鐘司

何と仰いましたか？

何と仰いましたか？

鐘司

いいから答えろ。

何か料理は作ってたか？

鐘司

俺はコップを洗つてた。

何を？

鐘司

川地さんは？

何を？

辺見君、大丈夫か！ ガスは止まつたか！ なぜ返事をしない！

つて、気を失つたのか！ どうなんだ、辺見君！

ガスを吸

辺見君、大丈夫か！ ガスは止まつたか！ なぜ返事をしない！

つて、気を失つたのか！ どうなんだ、辺見君！

ガスを吸

鐘川地

鐘
川
地

大丈夫か、辺見君！
ガスが充满してたんで、ずっと息を止めてたんです。ガスレンジが不完全燃焼を起こしました。

ガスレンジを使っていたのは私だ。
火を止めて、窓を全部開けてきました。もう心配はいりません。

鐘司が倒れる。川地・長門・ゆかり・ミエ・マリが去る。

ベテルギウ

(拍手して) すばらしい! あなたは自分の身を挺して、川地さんたちを助けた。この行為だけでも、天国へ行く資格があります。

プロキオン

所長、彼に天国へ行かれては困るんですよ。

プロテルギウ

わかつてますよ。私は辺見さんの行為を褒めただけです。

プロキオン

(鐘司に) 川地さんは給料を上げたんじやないですか?

プロキオン

いいえ。かわりに僕の手を握って、感謝していると。

プロキオン

また言葉だけですか?

プロキオン

でも、多少の遅刻は目をつぶってくれるようになりました。僕はオードリー

プロキオン

で毎日五時間働きました。おかげで、貯金は着々と増えていきました。

プロキオン

問題は勉強ですね。成績も着々と上がったんですか?

シリウス

おかげさまで。でも、東大は超難関校だから、簡単には受からなかつた。最初の受験は不合格。一浪して受けた二回目も不合格。

シリウス

といふことは、二浪したんですか?

シリウス

三回目の受験は一九六四年の三月。僕は二十歳になつていました。

シリウス

① 一九六四年三月夕、辺見家。友枝・雪也がやつてくる。

シリウス

お兄さん、合格おめでとう! 現在の心境は?

シリウス

雪也

鐘司

雪也 鐘 友枝

鐘 司 雪也 鐘 友枝

友枝

そこへ、義一がやってくる。

鐘 義 友 雪
司 一 枝 也

あれ、お父さん、もう帰ってきたの？
忠子の風邪が移ったみたいだ。大事を取つて、帰ってきた。それに、そろそろ結果がわかつた頃かと思つて。
合格だよ。お兄さんはついに東大に合格したんだ。
(義一に) 今夜はお寿司でも取ろうかって言つてたんですよ。いいですね？
もちろんだとも。鐘司、合格おめでとう。
ありがとう。お父さんがそう言つてくれるとは思わなかつたよ。

うれしいっていうより、ホツとしてる。今年が最後のチャンスだと思つてたんで。

落ちたら、東大は諦めるつもりだつたの？

長男がいつまでもフラフラしてゐわけには行かないからな。

フラフラなんかしてなかつたじやないか。おまえはこの三年間、本当によく頑張つた。入学式まで、のんびりするといいよ。

そういうわけには行かないんだ。僕はまだスタートラインに立つたに過ぎない。大学でいい成績を取らないと、生産技術研究所には入れないんだ。

それじや、今日からまた勉強？

とりあえず、英語の力をもつとつける。英語の論文がスラスラ読めるようになりたいから。

わかつた。でも、今夜はぐらいは家族みんなでお祝いしよう。久しぶりに、お寿司でも取ろうか。

友雪友義鐘義
枝也枝一司一

鐘義鐘義鐘
司一司一司

義鐘
一司

義雪義
一也一

自分の息子が日本の最高学府に入ったんだ。喜ばない親がいるもんか。
じや、お兄さんがロケットを作ることも認めてくれるんだね?
なあ、鐘司。東大へ行つたら、建築の勉強をしてみないか。ロケットを作る
のはすばらしい仕事だが、家を作るのはそれに負けないぐらいいの価値がある

それはよくわかつてゐよ。

本當にそうか? 今日本を見回してみろ。戦争の傷跡はようやく癒えたが、
庶民は相変わらず貧しい。今の庶民の夢は、自分の家を持つことだ。俺はそ
の夢を叶えるために、少しでも安くていゝい家を作ろうとしている。

そのおかげで、会社はちつとも儲からないけどね。

そのおかげで、たくさんの人が喜んでくれる。

僕が作ったロケットが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。

僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
お父さん、僕はお父さんを尊敬してる。お父さんはたくさんの人たちを幸せ
にしたくて、僕はお父さんを尊敬してる。お父さんはたくさんの人たちを幸せ
にしたいんだ。でも、僕はどうしてもロケットを作りたいんだ。

ごめん。僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。

僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。

僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。

僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。
僕が作つたり口ヶツトが宇宙へ行つたら、日本中の人が喜んでくれるよ。

鐘司

(ベルギウスに) 一週間後の夜、オードリーの川地さんが送別会を開いてくれました。

義一・友枝・雪也が去る。

② 一九六四年三月夕、喫茶店。川地がやつてくる。

川地 早かつたな、辺見君。

鐘司 僕も何かお手伝いしようと思つて。

川地 君は今夜の主賓なんだ。何もする必要はない。そこに座つて、スピーチのネ

鐘司 タでも考えていたまえ。

川地 スピーチをするんですか？ そういう堅苦しいのはやめにして、パーツとやりませんか？

鐘司 主賓は君だが、主催は私だ。私好みの、シックでエレガントな送別会にさせてもらう。

川地 了解しました。川地さん、三年間、お世話になりました。

鐘司 お札を言うのはこっちの方だ。私がこうして店を続けてこられたのは、みんな君のおかげだ。君が事故を未然に防いでくれたから。

川地 そこへ、ゆかり・ミエ・マリがやってくる。

ゆかり・ミエ・マリがやってくる。

あれ？ 辺見先輩、もう来てたんですか？

君たちも出席するのか？

川地さんには飾りつけを頼まれたんですよ。ほら、見てください。

ミエ 鐘司 ゆかり

ミエ・メリが横断幕を広げる。「辺見鐘司君、東大合格おめでとう！」と書いてある。

川地
ゆかり

鐘司
メリ

「おめでとう」が「おでめとう」になつてゐるぞ。
それ、メリが書いたんです。（メリに）おめでたい席に縁起でもない。送別会の最中にガス爆発でも起きたら、どうするのよ。

ごめんなさい。今すぐ書き直します。
いいつて、いいつて。これ書くのに、何時間もかかつたんだろう？ その気持ちだけで十分だよ。

三人
鐘司

鐘司
メリ

辺見先輩、優しい！
君たち、今日は学校は？
早退けしてきました。辺見先輩のために。

三人
鐘司

川地
ゆかり

（鐘司に）東京へ行つても、私たちのこと、忘れないでくださいね。
（鐘司に）私たち、十月の東京オリンピック、三人で見に行くんです。その時、東京を案内してくれませんか？

いいよ。それまでに、東京の地理に詳しくなつておく。

長門 鐘司、合格おめでとう。

川地・ゆかり・ミエ・メリが去る。そこへ、長門がやつてくる。段ボールを持っている。

鐘司

長門

鐘

ありがとう。買い出しに行ってきたのか？
ああ。それと、ちょっと寄る所があつて。実は、今日の送別会にどうしても
出たいつてやつがいてな。ここへ連れてきたんだ。中に入れても、構わない
か？

もちろんだとも。

(外に向かつて) 碧！

鐘司

長門

鐘

そこへ、蜂谷碧がやってくる。

(鐘司に) こいっちは俺の従妹なんだ。碧、挨拶しろ。

(鐘司に) 蜂谷碧です。初めまして。碧、挨拶しろ。

辺見鐘司です。君の顔には見覚えがあるな。もしかして、同じ高校？

そうです。私は辺見さんの二年後輩です。ゆかり君と同じ学年か。すると、君も試合の応援に来てくれたのか？

ごめんなさい。私は野球には興味がなくて。

(鐘司に) こいっちは子供の頃から本の虫でな。運動はからつきしダメなんだ。

思いました。いつも図書室にいた子だ。そうですね？

まじめな人だなって感心してたんです。君はいつも本を読んでた。

地味だけど、きれいな子だなと思つてたんだ。

地味？ 今は違う。久しぶりに会つたら、全然地味じやなくなつてた。よかつたら、
君も準備を手伝つてくれないか？

鐘司

長門

鐘司

鐘司

長門

鐘

碧鐘司

喜んで。
(ベテルギウスに) 送別会が終わった後、僕は碧君を家に送つていくことになりました。

③ 長門が去る。
一九六四年三月夕、路上。

今日はいきなり押しかけちやつて、すみませんでした。別に構わないよ。こうして君と知り合いになれたし。私は、どうしても辺見さんにおめでとうが言いたかつたんです。図書室で勉強する姿をずっと見てたから。僕も君が本を読む姿を見た。僕らは三年前から知り合いであります。でも、私のこと、忘れてたでしよう? 短大へ行きます。司書の資格を取るために。ごめん。そう言えば、君は今、三年生だよね? 卒業した後はどうするの? 君は司書を目指してます。司書の資格を取るために。他にも好きなものはいっぱいありますよ。家へ帰つたら、テレビばかり見てますし。ひよつとしてカラーハイもつと/or もちろんですよ。え? 悪かっただな、白黒ですか? 私、坂本九ちゃん夜の星やんを』が大好きなんですね。『上を向いて歩こう』とか、『見上げて

碧鐘司 碧鐘司 碧鐘司 碧鐘司 碧鐘司

碧鐘司 碧鐘司

僕はテレビはあまり見ない。家でも勉強してるんで。

辺見さんは東大へ行って、何を研究するんですか？

ロケットだよ。アポロ計画って知ってるかい？ アメリカ航空宇宙局が立てた計画で、十年以内に人間を乗せたロケットを月まで飛ばそうっていうんだ。

月つて、あの月ですか？（空を指さす）

そうだよ。僕は間違いなく成功すると思つてる。そして、いつかは僕も、自

分が作つたロケットを月まで飛ばしたい。

信じられません。人間があんなに遠くまで行くなんて。

頭から決めつけちゃいけない。人間には無限の可能性がある。

自分が行けるんだ。

つて信じれば、どこまでだつて行きたい。

（空を指さして）あの星にも？

ああ。（空を指さして）あの星にも？

ああ。何年先になるかわからないうけど、必ず行ける。

ああ。何年先になるかわからないうけど、必ず行ける。

だとしたら、あの星は私たちが来るのをあそこで待つてるんですね。

（ベテルギウスに）そう言つて、碧君は静かに歌い出しました。

プロキオンがギターを弾く。碧が歌う。それを聞いて、鐘司も歌う。

碧

碧・鐘司

「見上げてごらん夜の星を／小さな星の小さな光が／ささやかな幸せをうたつてゐる」「見上げてごらん夜の星を／ボクらのように名もない星が／ささやかな幸せを祈つてゐる」

そこへ、雪也が走つてくる。

雪鐘雪也

鐘碧鐘司

碧が去る。

お兄さん、こんな所で何をしてるんだ。
(碧に)弟の雪也だよ。雪也、俺に何か用か?
お父さんが会社で倒れたんだ。ついさっき、叔母さんが家まで送つてきてく
れた。(碧君)大丈夫です。悪いけど、一人で帰つてく
れます。家はすぐ近くですから。

①一九六四年三月夜、辺見宅。辺見忠子がやつてくる。

叔母さん、お父さんは？
居間にいる。私もお義姉さんも、布団で横になつた方がいいって言つたんだ
けど、もう大丈夫だつて言い張つて。

家へ帰つてきた時は、口もきけない状態だつたのに。

（忠子に）なぜ病院へ連れていかなかつたの？
本人が行きたくないつて言うんだから、しようがないだろう？ でも、明日
は首に縄をつけてでも、連れていく。今度と言う今度は、詳しく検査しても

らわないと。

前にも同じようなことがあつたの？

今日ほどひどくはないけどね。最初は五年ぐらい前だつたかな。大抵は会社
で残業してゐる時に起きたんだ。いきなり胸を押さえて、動けなくなるんだよ。

私は心臓が悪いんだと思う。あんたちのおじいちゃんは心筋梗塞で亡くな
ったんだよ。亡くなる前に何度も発作を起こした。その時とよく似てる
そんな話、初耳だよ。

雪也

忠子

忠子

忠子

忠子

忠子

忠子

鐘司

雪也

忠子

鐘司

忠子

そこへ、友枝が義一を支えながらやつてくる。義一が椅子に座る。

このことは、私とお義姉さんしか知らない。あんたたちには言うなって言われてたんだ。
そう言えば、時々、仕事を早退けして、帰つてくることがあった。お父さんはただの風邪だつて言つてたけど。
お父さんは働きすぎなんだ。体を壊す前に、もつと人を雇えばよかつたんだよ。
そんな余裕は、うちの会社にはないよ。毎月月末は綱渡り。今まで潰れなかつたのが不思議なくらいなんだ。
どうして僕らには話してくれなかつたんだろう。
余計な心配をかけたくないかったんだよ。（鐘司に）でも、あんたのことは楽しみにしてたんだ。
鐘司なら、きっとうちの会社を大きくしてくれるつて。

鐘司

友枝

鐘司

雪也

友枝

義一

お父さん。

（友枝に）叔母さんに聞いたよ。お父さん、心臓が悪いんだって？
それほどひどくはないんだよ。今までだつて、一晩寝れば、治つたし。

でも、今日は？
叔母さんに支えてもらわなければ、歩けなかつたじやないか。
騒ぐほどのことじやない。俺は大丈夫だ。

忠子
忠子

義一
忠子

友枝
忠子

義一
友枝

義一
義一

鐘司
鐘司

義一
義一

鐘司
一司

いつものお兄さんに戻ったみたいね。でも、いきなり倒れた時はビックリしたのよ。お兄さんにもしものことがあつたらどうしようって思つちゃつた。心配をかけて、済まなかつたな。

水臭いこと言わないでよ。でも、こんな思いは二度としたくない。明日は仕事を休んで、病院へ行つてね。

その必要はない。強がりを言うのはやめて。お兄さんだつて、お父さんが亡くなつた時のことは覚えてるでしょ?

（義一に）検査だけでもしてもらつた方がいいんじやないですか？あなたももういい年なんだし。

しかし。取り返しがつかくなつてからじや、遅いんですよ。あなたにはできるだけ長生きしてもらわないと、私たちが困るんです。

わかつた。明日、病院へ行く。

お父さん、ごめんなさい。お父さんの気持ちも知らないで、勝手なことばかりして。

何を今さら。

でも、こうなる前に言つてほしかつた。心臓が悪いこと、会社の経営が苦しいこと、僕の助けが必要なこと。

誰がそんなことを言つた。おまえなんかいなくたつて、うちの会社はやつていける。

でも、僕は長男だ。長男には、親の仕事を継ぐ責任がある。俺がこうなつて、同情したのか。かわいそうだと思つたのか。

鐘司義一

違う。僕は自分のしていることがただのわがままかもしれないと思つたんだ。
それは最初からわかつていたことだ。それでも、おまえは口ケツトを選んだ。
だったら、その決断を最後まで貫き通せ。

義一・友枝・忠子・雪也が去る。

プロキオン
ベテルギウ

全く頑固な親父だな。素直に跡を継いでくれって言えばいいのに。
昔の男性はみんなこうでしたよ。息子に自分の弱みを見せたくないんです。

鐘司

(鐘司に) それで、お父さんの検査の結果は?

プロキオン

心筋梗塞でした。すぐに手術をしたんですが、その最中に容態が悪化して、
息を引き取りました。

鐘司

亡くなつたんですか? そんな。
父は四十八歳でした。会社を潰さないために、死に物狂いで働いて、そのおかげで寿命を縮めたんですね。

ベテルギウ

そのかわり、たくさんの人々に安くていい家を作つた。きっと天国へ行つたと思ひますよ。

鐘司

父も天国行きのバスに乗つて、ここを通つたんですね?

シリウス

今頃は天国であなたのことを見てますよ。

（鐘司に）それで、お父さんの会社はどうなつたんですか?
父はやりかけの仕事をたくさん残していました。僕は東京へ出発するまで、
叔母の手伝いをすることにしました。

②一九六四年四月星、会社。忠子がやつてくる。

鐘司、ちょっといいかい？ 今、お客さんがいらつしやつたんだよ。

僕は外に出てようか？

あなたにも同席してほしい。お客さんていうのは、堀田不動産の社長さんなんだよ。

あんな大きな会社の社長さんが、どうしてうちに？
折入つて相談したいことがあるんだつて。私一人じや不安だから、あなたも一緒に話を聞いて。別に構わないけど。

そこへ、堀田兵士郎とゆかりがやってくる。

突然、お邪魔して、申し訳ない。君が辺見さんの息子さんか。

長男の鐘司です。初めまして。

堀田兵士郎です。君の噂はゆかりからよく聞いている。

（ゆかりに） そうか。君は堀田さんの親戚だつて言つたね。
姪です。三月の末から、伯父の秘書をつとめてます。今はまだ見習いですが

ゆかりは見た目もいいが、頭もいい。秘書にして正解だつたよ。
社長、私のことより、本題に入つてください。

わかつたわかつた。（鐘司に） 普通、秘書というのは社長に気を遣うものだ

堀田ゆかり

堀田ゆかり

鐘司忠子

忠子

ろう。しかし、ウチは逆なんだ。

堀田
ゆかり

社長、怒りますよ。よしよし、冗談はここまでにしよう。さて、忠子さん。お兄さんが亡くなつて、まだ一月も経たないのに恐縮だが、この会社のこれからのことについて話をしたい。ゆかりの話によると、鐘司君は来月から東京の大学へ行くそうだね。

ええ。おかげさまで、東大に合格しまして。

つまり、長男のくせに、父親の跡は継がないわけだ。では、誰が次の社長になるのか。

次男の雪也です。でも、雪也はまだ高校生なので、卒業するまでは私が女の方の社長とは珍しい。しかし、建設業は男の世界だ。はたしてうまくやつていけますかな？

兄のやり方を受け継いでいけば、何とかなるのではないかと。

辺見さんは安くいい家をたくさん作ってきた。自分の会社の儲けは度外視して。おかげで、経営状態はいつもギリギリ。そうだな、ゆかり？

辺見さんご本人がしばしばそのようなことを口にしたようです。知り合いの方々がそう証言しています。

（忠子に）実際のところはどうなんですか？

ギリギリなのは事実です。でも、借入金の返済が遅れたことは一度もありません。

それは辺見さんが方々に頭を下げて、金を融通してもらつたからだ。しかし、せん。辺見さんが亡くなつた今、その手が通用するかどうか。

堀田さんは叔母にどうしろと仰りたいんですか？

しかし、

鐘司

堀田

忠子 堀田 忠子 堀田 忠子 堀田 忠子 堀田

ゆかり

はつきり言いましょう。辺見工務店を私に譲っていただきたい。

それはつまり、堀田さんが社長になると言ふことですか？

私は長年、不動産業で飯を食つてきたが、そろそろ他の業種にも手を広げたい。建設業はその手始めというわけです。

だったら、自分で会社を作ればいいのに。

辺見工務店はいい会社だ。私が経営すれば、きっと大きくなる。十年以内に、長野一にしてみせます。名前は堀田工務店に変えますが。堀田さん、この話はお断りします。

堀田さん、いきなり断るなんて、失礼だよ。

叔母さん、あんたはわかつてない。この人が言つてることはすべて奇麗事。本当

はうちの会社が目障りなんだよ。

この人は笛田市内にたくさん賃貸住宅を持つてる。その住人が家を買って、出でていったら？ 当然、空き家になるだろう？ この人から見れば、うちの会社は商売敵なんだよ。

この人は笛田市内にたくさん賃貸住宅を持つてる。その住人が家を買って、出でていったら？ 当然、空き家になるだろう？ この人から見れば、うちの会社は商売敵なんだよ。

大袈裟なことを言つては困る。店子の一人や二人、出ていったところで、私は痛くも痒くもない。

だつたら、どうして兄の邪魔をしたんです。一度契約が決まつた土地を横取りしたり、欠陥住宅だつて風評を流したり。あなたが裏から手を回したこと

はわかつてゐんですよ。

不當な言いがかりだ。名譽棄損で訴えるぞ。

お好きにどうぞ。とにかく、うちの会社はあなたには譲りません。そんなこ

忠子 堀田

忠子 堀田

忠子 鐘司

忠子 鐘司

忠子 鐘司

忠子 鐘司

堀田 忠鐘 忠鐘 忠子

忠子・堀田

断るなら、それでもいい。しかし、あんたが社長になつたら、先は見えてるぞ。
ご心配なく。社長にはここにいる鐘司がなりますから。

僕が？ 鐘司、私を助けて。うちの会社の社長になつて。

でも、僕は東京へ行くんだ。
雪也が高校を卒業するまででいい。それまで、お兄さんが作った会社を守つ

忠子・堀田

5

鐘司 ベテルギウ

プロキオン

プロキオン

ベテルギウ

鐘司

シリウス
ベルギウ

(鐘司に) それで、あなたは社長の座を引き受けたんですか?
もちろん、その場は断つたんですが、それから毎日叔母が家へやつてきて、
頼む頼むと頭を下げるんです。一週間後、僕は渋々、ウンと言いました。
それじや、東大は諦めたんですか?
一年間、休学することにしました。弟の雪也はその時、三年生だったので、
僕が社長をやるのは一年だけだと思ったんです。
思つた? ということは、一年じや済まなかつたんですか?
実際に仕事を始めてみて、建設会社を経営することがどんなに大変か、よく
わかつたんですね。建築の知識より、経営の知識の方がはるかに重要だつた。
僕でさえ頭がパンクしそうな仕事が、雪也にできるとは思えない。
あなたと違つて、頭の出来が悪そですかからね。
所長、言い過ぎです。
僕は雪也に言いました。大学へ行つて、経営を学んでいい。おまえが卒業す
るまで、会社は俺が何とかすると。
ということは、一年プラス四年イコール五年?
(鐘司に) でも、休学つて、五年もできるんですか?
最長で一年までしか認められません。
それじや、退学したんですか? せつかく二浪して、受かつたのに。

鐘司

受験に年齢制限はない。僕は五年後にもう一度受けたことにしました。一年後、雪也は東京の私立大学に合格して、家を出ていきました。そして、四年後の一九六九年の一月。

シリウス

雪也さんが帰ってきたんですか？

①一九六九年一月夕、辺見宅。友枝がやつてくる。紙袋を持っている。

友枝 鐘司 友枝 鐘司 友枝 鐘司 友枝 鐘司

そこへ、雪也・樺本洋代がやつてくる。

鐘司、雪也が帰ってきたよ。これ、東京のお土産だつて。バカなやつだな。実家へ帰るのに、気を遣うことなんかないのに。違うんだよ。このお土産は、雪也の連れの人が私たちについて連れの人つて？

それがなんとまあ、雪也の彼女だつてさ。ビックリするじゃないか。

雪也 鐘司 雪也 鐘司

ただいま、お兄さん。
雪也、俺はおまえに経営の勉強をしてこいつて言つたんだ。彼女を見つけてこいとは言つてない。

勉強はしつかりやつたよ。成績だつて、ほとんど優だつた。神様はそんな僕の姿を空の上から見てたんだろうな。それで、ご褒美をくれたんだ。ご褒美つて、私のこと？
そうだよ。僕は幸せ者だ。だって、洋代みたいな素敵な女性と出会えたんだから。

雪也 洋代

洋 鐘 洋 鐘 洋 鐘 洋 鐘

雪 司 代 司 代 司 代 司

雪 友 洋 友 洋 友 洋 友

也 代 司 也 代 司 也 代

友 雪 洋 鐘 洋 鐘 洋 鐘

枝 也 代 司 也 代 司 也

私も幸せよ、雪也。

(雪也に)お取り込み中に申し訳ないが、彼女を紹介してくれないか。

ごめんごめん。

彼女は僕と同じ大学で、文学部四年生の樺本洋代さん。

(鐘司に)初めまして。お兄さんの鐘司さんですね? お噂は雪也君から

聞いてます。東大を蹴つて、お父さんの会社を継がれたんだそうですね。

仕方なくだよ。僕は長男だから。

わかれます。私も長女ですから。

洋代さんのお父さんはどんなお仕事をなさってるの?

東京で、計算機の会社を経営しています。
あら、あなたのお父さんは社長さん?
うちの会社とは桁が違うよ。社員が百人以上いて、本社とは別に、工場もあるんだ。

(友枝に)来年、長野に新しい工場を作る予定です。会社の規模がどんどん大きくなるので、父は大忙しなんです。でも、雪也君が手伝ってくれれば、少しは楽になるんじゃないかな。
洋代、その後にしよう。

ごめんなさい。私ったら、つい口を滑らせちゃって。
一体何の話だい?
どうせだから、言っちゃいますね。私たち、婚約したんです。そうよね、雪也?
参ったな。お母さんたちには僕から話をするつもりだつたのに。
なんてことだい。
あんた、彼女じやなくて、お嫁さんを連れてきたのかい?

そこへ、忠子がやつてくる。

雪也、久しぶりだね。あら、そちらの方は？

忠子さん、よく聞いて。この人は雪也のお嫁さんになる人なんだよ。
お嫁さんだつて？ 雪也、あんたつて子は暗算も駆け足も遅いのに、こういうことだけ速いんだね。

やめてくれよ、叔母さん。
(忠子に) 初めまして、樺本洋代です。

願い。雪也の叔母の忠子です。二人の馴れ初めを教えてよ。お義姉さん、お茶をお

友枝・忠子・洋代が去る。

お兄さん、結婚の話はまだ本決まりじゃないんだ。本当だよ。
でも、おまえは彼女と一緒になりたいんだろう？
うん。でも、彼女は一人娘でね。お義父さんからは、婿になつて、会社を継ぐなら、結婚を認めるとて言わてるんだ。
樺本計算機か。俺も聞いたことがあるぐらいだから、さぞかしきな会社なんだろうな。
お兄さん、お兄さんが反対するなら、僕は——
反対なんかするわけないだろう。おまえと洋代さんは愛し合つてる。だつた
せにする責任が生じるんだ。
お兄さん、お兄さんが反対するなら、僕は——
お兄さん、お兄さんになるべきだ。でも、これだけは覚悟しろよ。おまえには彼女を幸

鐘司 雪也 鐘司 雪也 鐘司 雪也

忠子 友枝 忠子 友枝 忠子 友枝

雪也

ありがとう、お兄さん。

雪也が去る。

プロキオン

雪也、おまえ、勝手すぎないか？（鐘司に）あなたもあなたですよ。実の弟に裏切られたのに、なぜあつさり許すんです。五年前のこと思い出したんですよ。僕は東大に入れなかつた。あの時感じた苦しみは、今でも忘れません。僕はあの苦しみを、雪也に味わわせたくなかった。

ベテルギウ

でも、あなたの夢は？

鐘司

こう思つて、諦めることにしました。ロケットは僕以外の人間にも作れる。でも、辺見工務店の社長は僕にしかできない。

ベテルギウ

それで本当に諦めることができましたか？

鐘司

いいえ。でも、雪也と洋代さんはその年の七月に結婚式を挙げました。新婚旅行はアメリカ一周。途中で、フロリダにある、ケネディ宇宙センターにも行きました。何をして行つたか、わかりますか？

プロキオン

ロケットの打ち上げでも見に行つたんですか？

シリウス

当たり。でも、ただのロケットトジやありません。世界で初めて月面に着陸した、アポロ十一号の打ち上げです。アポロ十一号の打ち上げは、一九六九年の七月ですね。

②一九六九年七月夕、辺見宅。友枝がやつてくる。

鐘司、アポロ十一号のニュースが始まつたよ。見なくていいのかい？」

おじいちゃん、アーミーストロング船長が月面に立つたのは、日本時間の午前十二時半。

明日新聞を読むからいいよ。じゃ、僕はちょっと出かけてくる。
どこへ行くの？

散歩だよ。夕食までには戻つてくるから。
それなら、ちょっと寄つてほしい所があるんだけど。

碧さんの家。この前、駅前を歩いていたら、ばったり会つてね。「鐘司さんはお元気ですか?」って聞かれたんだ。だから、顔を見せに行って。

あの子はおまえに会いたがつてゐるんだよ。おまえのことが好きなんだ。

鐘司、碧さんはまじめない子だよ。あの子を知つてゐる人はみんな褒める。お見合いの話だつて、腐るほど來てるはずだ。ボーッとしてたら、他の男に

そのセリフは去年も一昨年も聞いたよ。結婚は大学を卒業してから考えるつて言つてたよね？ でも、今は？ 大学へ行かないなら、そろそろ考え始め

友鐘司

鐘碧鐘碧鐘碧
司司司

てもいいんじやないかい？
そんなこと、急に言われても。
おまえ、碧さんのことはどう思つてるんだい。
僕もまじめない子だと思つてるよ。
だつたら、迷うことはないじやないか。
この話はおしまいにしよう。散歩に行つてほしいんだよ。今まで散々苦労してきたん
だから。ありがとう、お母さん。

鐘司

て
も
い
い
ん
じ
や
な
い
か
い
？
そ
ん
な
こ
と
、
急
に
言
わ
れ
て
も
。

僕は家を出ると、三隈川に沿つて、歩き始めました。ふと気づいてみると、碧君の家の前まで来ていました。

友枝が去る。

鐘司

て
も
い
い
ん
じ
や
な
い
か
い
？
そ
ん
な
こ
と
、
急
に
言
わ
れ
て
も
。

僕は家を出ると、三隈川に沿つて、歩き始めました。ふと気づいてみると、碧君の家の前まで来ていました。

鐘友枝

てもいいんじやないかい？
そんなこと、急に言われても。
おまえ、碧さんのことはどう思つてるんだい。
僕もまじめない子だと思つてるよ。
だつたら、迷うことはないじやないか。
この話はおしまいにしよう。散歩に行つてほしいんだよ。今まで散々苦労してきたん
だから。ありがとう、お母さん。

鐘司

て
も
い
い
ん
じ
や
な
い
か
い
？
そ
ん
な
こ
と
、
急
に
言
わ
れ
て
も
。

僕は家を出ると、三隈川に沿つて、歩き始めました。ふと気づいてみると、碧君の家の前まで来ていました。

長鐘 長鐘 長鐘
門司 門司 門司

長門 碧鐘 長鐘
門司 門司 門司

長門

碧鐘 碧鐘 碧鐘
司 司 司

そこへ、長門がやってくる。

まあだだよ。
こんな顔、一秒見れば、十分だろう?
辺見さん、少し痩せましたね。顔色もよくなない。それに何だか寂しそう。
それは君の思い過ごしだよ。じや、僕はもう行くから。
あつ、秀ちゃん!
あれ? そこにいるのは鐘司じやないか。お

ごめんな、遅くなつちやつて。あれ?
まえ、ここで何してるんだ?
散歩だよ。長門は?
碧と二人でボーリングに行くん
おまえら、付き合つてたのか?
付き合つてません! でも、秀ちゃんに無理やり誘われて。
碧が一度もやつたことがないって言うから、俺が教えてやろうと思つてな。
俺、こう見えても、巧いんだぜ。目標は中⼭律子。
男俺、いやいや、矢島純一か安武民祐を目指せよ。
付つけられても。ら。 。
やつせいやいな、じやないか、楽しかったことがないつたこと。
だからだ? つかんだから。それも。
だ、なんか? たこと碧を連れていけんできなんだから。
てだないじいな、じやないか、連れてくつてくれ。これで出かけるんだぞ。これはいわゆるデートつ

碧鐘碧
司

鐘碧司

鐘碧鐘司

長門が去る。

碧君、これは一体……
私は辺見さんが好きです。辺見さんは私が好きですか？
好きだよ。ずっと好きだった。でも、今の僕は君に会うのが辛い。僕は君に
嘘ついたから。
嘘つて？
五年前に言つただろう？ いつかは僕も、自分が作つたロケットを月まで飛
ばしたいつて。でも、今の僕はどうだ？ 大学へ行くのを諦めて、父親の跡
を継いだ。ロケットのかわりに、家を作つてる。
家を作るのも、立派な仕事だと思います。
そんなことはわかつてゐる。でも、僕が作りたかったのは家じやない。
だつたら、ロケットに負けない家を作つてください。そこに住む人たちが、
アームストロング船長より幸せになれるような、そんな家を。

長鐘碧長鐘
門司門司

言われなくとも、わかつてゐるよ。楽しいデートになることを祈つてゐる。
ダメだ、碧。こいつ、全然焼き餅を焼かない。
もういい。秀ちゃんは帰つて。
え？ デートに行くんじやないのか？
鈍いやつだな。おまえは俺たちが二人で出かけるつて聞いたら、反対するべ
きだつたんだ。笑顔で送り出すなんて、最悪の選択だ。
長門、俺には何が何だか、さっぱりわからな
い。
だつたら、碧に説明してもらえ。俺は帰る。

碧 鐘 碧 鐘 碧 鐘
司 司 司

碧が鐘司の手を握る。

口ケツトに負けない家?
辺見さんなら、きっと作れます。
僕と結婚してほし。この通りだ。(頭を下げる)
わかつた。そのかわり、君も協力してほしい。
見さん、私はその言葉を五年も待つてたんですよ。

ベルギウ　（拍手して）おめでとうございます、辺見さん！
 鐘司　　ありがとうございます。でも、僕が碧にプロポーズしたのは、十三年も前の
 プロキオン　話なんで、今さらおめでとうって言われても。
 鐘司　　念のために聞いておきますけど、碧さんのお父さんは社長じゃなかつたんで
 シリウス　しょうね？
 鐘司　　普通の会社員で、碧はその次女でした。当時は市立図書館で司書をしていました
 鐘司　　市内の神社で？
 ベルギウ　結婚式はどうですか。
 鐘司　　市内での神社で。
 プロキオン　神社？あなた、天使を三人も前にして、よく神社なんて言えましたね。
 ベルギウ　いや、僕は別に神道の信者つてわけじゃないんですが、当時は神社で神主さん
 お坊さん　に祝詞をあげてもらつて、その後、自宅で宴会をするのが一般的で。
 ベルギウ　所長、許してあげましよう。私たちだって、地上にいた頃は、神社にお参りして
 お坊さん　いたじやないですか。
 ベルギウ　私はしてません。私の父は寺の住職でしたから。
 ベルギウ　お坊さんの娘が天の行に善行になつて、いいんですか？
 ベルギウ　お坊さんのお坊さん本人だろうが、お坊さん本人だろうが、お坊さん本人だろう

シリウス

鐘司

シリウス

①一九七〇年三月朝、笛田駅。碧・友枝・雪也・洋代・川地がやつてくる。

(鐘司に)それで、新婚旅行はどちらへ?
式を挙げたのが翌年の三月で、ちょうど大阪万博が開催した直後だったんで
す。それで、二人で大阪へ。
大阪万国博覧会、エキスポ七〇の開催は、一九七〇年の三月ですね。

（鐘司）それは、辺見鐘司君と碧さんの前途を祝福して、バンザイ！バンザイ！

川地さん、もうそれぐらいで結構です。
（雪也）どうか？
（洋代）私としては、君たちを乗せた列車が見えなくなるまでやりたいん
だがな。

（雪也）お兄さん、アメリカ館には行くんだろう？

（鐘司）やつぱり、月の石は見なきや。あと、アポロの月着陸船も。

（雪也）でも、五時間も並ばなきやいけないらしいんだ。

（洋代）その間は、お義姉さんとおしゃべりしてればいいじゃないか。五時間ぐらい、

（雪也）あつとい間だよ。
（洋代）私たちも新婚旅行の時、フロリダの海岸へ日の出を見に行つて、結局、日の

（雪也）入りまで見ちやつたよね。

（洋代）金婚式を迎えたら、またあそこへ行こう。

（雪也）そんなに待てない。今年行きたい。そうだ、毎年行こうよ。

（洋代）お話しは二人だけの時にしますね。
（雪也）お義母さんをお願いします。

（洋代）お兄さんの出発を祝いたまえ。

洋代
碧枝
鐘司

万博会場では、迷子にならないように、手を握ってた方がいいですよ。
はい、そうします。（鐘司の手を握る）
その手を絶対に離すんじゃないよ、鐘司。
わかつた。

そこへ、忠子がやつてくる。

忠子 鐘司 忠子 鐘司 忠子 鐘司

鐘司、ちよつと話があるんだよ。

昨夜からの雨で、三隈川の水位が上がっちゃつて。砂尻の辺りで、水が溢れたらしいんだ。

あそこは川幅が狭いからね。私が子供の頃も、溢れたんだよ。
（鐘司に）砂尻には、新築中の家が三軒もある。下手をしたら、大損害だよ。
それだけじゃないよ。そこには、僕が社長になつてから売つた家が何軒もある。
ある。小川さんの家、奥村さんの家、黛さんの家……。
どうする、鐘司？
碧、僕は砂尻へ行く。君は家で待つてくれ。

碧 鐘 忠 司

碧・友枝・堀田不動産。堀田ゆかりがやつてくる。

碧・友枝

ゆかり
辺見先輩、お待たせしました。

（

堀田
鐘司

堀田
鐘司

堀田
鐘司

堀田
鐘司

堀田
鐘司

ゆかり

（鐘司に）私に話というのは何だね。

今朝の六時頃、三隈川が氾濫を起こして、砂尻の一帯が洪水になつてゐることはご存じですか？

もちろん知つてる。うちの会社の物件もいくつあるんで、今はその対応に任てんてこ舞いだ。

砂尻の住民は近くの小学校と中学校に避難しました。でも、人數が多すぎて、避難所に詰めの状態になつています。あそこは近年、転入者が急増して、避難所の整備が追いついてなかつたんですね。

市役所は早急に手を打つべきだな。よし、私から市長に電話しよう。

砂尻の隣の秋葉に、堀田不動産が経営しているビジネスホテルがありますよね？

笛田第一ホテルです。（堀田に）そのホテルの空き部屋を避難者に開放してもらえませんか？

タダで泊めろと言うのか？

無茶なことを言うな。

困った時はお互い様です。

（堀田に）そのホテルの空き部屋を避難者に開放してもらえませんか？

タダで泊めろと言うのか？

無茶なことを言うな。

堀田
鐘司

堀田
鐘司

僕は義務の話をしているんじゃない。人助けの話をしてるんです。それが市長からの要請だったら、まだ検討の余地はある。市が宿泊料を補償してくれる可能性があるからな。しかし、君が補償してくれるとは思えない。

鐘司

鐘田

鐘司

鐘田

堀田が去る。

だから、頼んでいるんです。堀田さん、お願いします。（頭を下げる）
鐘司君、君には会社の経営というものがまるでわかつていないうだ。
どういうことですか。
社長には会社を維持して、社員の生活を守る責任がある。一時の感情に押し
流されて、会社を傾かせるわけには行かないんだ。
これぐらいのことでは、堀田不動産が傾きますか？
話は終わりだ。私は仕事に戻る。
待つてください！

ゆかり

鐘司

ゆかり

鐘司

ゆかりが去る。

辺見先輩、社長は一度決めたことは絶対に変えません。これ以上、話をしても、無駄ですよ。
わからない。自分の町の人間が困つてゐるのに、なぜ助けようとしないんだ。
そんなの、一銭も儲からないからに決まつてゐるじゃないですか。
会社は金儲けの道具じゃない。かるけど、ここは頭を切り換えて、次にできることをやつた方がいいですよ。
ありがとうございます。ありがとう、ゆかり君。

プロキオン それで、次は何をしたんです。

鐘司

秋葉を走り回つて、避難所になりそうな建物を探しました。そうしたら、食会社の倉庫が見つかって、本社に電話してみたら、今は使つてないので、中は空だつて言うんです。すぐに本社へ乗り込んで、タダで貸してくれと頼みました。

ベテルギウ

今度はウンと言つてもらいましたか？

ベテルギウ

いやはやとは言えないつて。

ベテルギウ

それはきっと、天国のお父さんのお導きですよ。

ベテルギウ

それから大忙しだした。避難者を車で倉庫に運んで、みんなで倉庫を掃除して、家族ごとの配置を決めて、夕食を配つて、シリウス

シリウス

一体何時まで働いたんです。

③夜、倉庫の前。川地・長門がやつてくる。

鐘司、いつまで碧を待たせるつもりだ？
腕時計を見てしまつた。十一時を過ぎてる。

終電車はとつくに出た。今日は出発は無理だ。
（鐘司に）本当だったら、今頃は大阪のホテルについて、最上階のバーで力
クテルを飲みながら、「子供は一人ほしいね」（うん、三人よ）とか言つ
かわいそうだと思わないのか？

それなのには、碧は丸一日、自宅待機。

長門 鐘司 川地 長門

鐘 長 鐘 長 鐘 長
川 門 地 門 地 門

司 司 司 司 司 司

でも、俺には家を売った人間としての責任があつたから。
俺は責任の話をしてるんじやない。夫婦の愛情の話をしてるんだ。
(鐘司に)今すぐ家へ帰れ。帰つて、碧さんに謝るんだ。
(鐘司に)謝つても、許してもらえるかどうかはわからないがな。

④辺見宅の前。友枝・忠子・雪也・洋代がやつてくる。

碧はきっとわかってくれる。
あいつはああ見えて、気位が高いんだ。下手したら、離婚で話になるかもな。
家に帰ると、玄関の前で、母と叔母と弟夫婦が待つていました。

雪 鐘 洋
也 司 代

雪 鐘 洋
也 司 代

忠 子 鐘 友 川 長 友 鐘
枝 司 枝 地 門 地 司 子

お帰りなさい、お義兄さん！
みんな、こんな所で何をしてるんだ？

お兄さんの帰りを待つてたんだよ。今日は一日、秋葉を駆け回つてたんだろ
う？本当に疲れ様でした。

(鐘司に)新築中の家は三軒とも無事だよ。大工さんたちが守つてくれた。

碧は？
家の中にいる。おまえに話があるつてさ。

(鐘司に)ほら、俺の予想通りだ。
(鐘司に)まず最初に謝るんだ。碧さんが離婚話を切り出す前に。

お母さんは？
私は今夜は忠子さんの所に泊まる。
(鐘司に)僕と洋代は駅前のホテルに行くよ。

忠
洋
代
子

(鐘司に) 今夜は碧さんと二人だけで、じっくり話をするんだよ。
(鐘司に) お義兄さん、頑張って!
みんなの声援を背に受けて、僕は家の中に入りました。

辺見宅。

碧がやつてくる。テーブルの上に、食事の支度がしてある。

碧
鐘
司
お帰りなさい、鐘司さん。

碧
鐘
司

お腹を空かせて帰つてくると思って、夕食の支度をしておきました。さあ、

碧
鐘
司

碧、今日は済まなかつた! 君のことを忘れていたわけじゃないんだ。ただ、

碧
鐘
司

次から次へとやらなければいけないことが出てきて。それを必死でやつてる

碧
鐘
司

うちに時間が過ぎて。それがそうじやないんだ。僕は新婚旅行のために用意していた金を全部使つてしまつた。毛布や布団や食料を買って。僕らは大阪へは行けない。新婚旅

碧
鐘
司

行けばいいなくて、延期にしましよう。一生懸命働いて、貯金が貯まつたら、
中止じやねない。その時はもう新婚じやないかも知れないう。一生懸命働いて、貯金が貯まつたら、
私はここであなたと暮らすつて決めたの。

鐘司 そうか。みんなで俺を騙したんだな？ バカヤロウ！

川地がギターを弾く。友枝・忠子・雪也・洋代・川地・長門が歌う。

六人 「見上げてごらん夜の星を／小さな星の小さな光が／ささやかな幸せをうたつてる」

プロキオン・シリウス・ベテルギウスも歌う。

九人 「見上げてごらん夜の星を／ボクらのように名もない星が／ささやかな幸せを祈つてる」

鐘司・碧がワインで乾杯する。

鐘司	鐘司	鐘司	鐘司	鐘司	鐘司
プロキオン	ベルギウ	ベルギウ	シリウス	シリウス	ベルギウ

(鐘司に)いい奥さんをもらいましたね。
ええ、僕なんかにはもつたいないです。
だつたら、旅行にはすぐ連れていってあげたんでしょう?
そうしたいのは山々だつたんですね。
ですが、仕事が忙しくて。それに、結婚してす
ぐに、子供ができてしましますが。
男の子ですか? 女の子ですか?
女の子です。名前は鈴花にしました。
鈴花ですか? あなたなら、キスしました。
どういふことでしょうか?
に奥さんがいなかつたら、キスした。
鈴つていうのは、天使にとつて特別なものなんです。二級天使が一級に昇格
する時、神様はその天使に羽をお与えになります。そして、お祝いの印に地
上の鈴を一つ鳴らすんです。
本當ですか? 三人の天使に羽を手に入れたという意味なんですね。鈴花、實にいい
名前です。三人? 天使が羽を首につけた鈴をリンリンで鳴らしたら。
それでは、天使が羽を手に入れたという意味なんですね。鈴花、實にいい
旅行に行つちようど十歳ですが、生意氣で困つてますよ。

鐘司 プロキオン

それがいまだに……。
行つてないんですか？ 結婚してから十三年も経つのに？
だから、仕事が忙しかったんですよ。砂尻の洪水以来、辺見工務店の名前は
有名になりました。仕事の数はどんどん増えていきました。当然、土日も出勤です。

鐘司 プロキオン

それだけ働けば、貯金は十分に貯まつたでしよう。
普通の会社ならそうでしょう。でも、うちの会社のモットーは、いい家をよ
り安くです。経営はいつまで経つてもギリギリでした。
お父さんのやり方を守つたんですね。

シリウス

辺見工務店は父が作った会社ですから。でも、ついに絶体絶命の時が来た。
それが今日だつたんです。
今日は一九八三年の十二月二十四日、クリスマスイブです。

① 一九八三年十二月二十四日、会社。長門がやつてくる。

鐘司、これ、契約書と頭金の五百万だ。（封筒を差し出す）

（受け取つて）オーケイ。一応、中身を確認させてもらうぞ。
おまえにはいくら札を言つても足りない。俺が家を持てたのは、おまえのお
かげだ。
何を言つてるんだ。俺は定価での家を売つた。おまえが友達だからつて、
一切値引きしなかつた。
それでも、他の会社に比べれば、ずっと安い。これでよく儲けが出るな。
逆だよ。他の会社が儲けすぎなんだ。

鐘司 長門

鐘司 長門

鐘司

長門

鐘司

長門
鐘司

鐘司を受話器を取る。別の場所に、雪也がやつてくる。

いや、値段の話だけじゃない。そもそも今の会社に就職できたのだって、おまえがウチの社長に頭を下げてくれたからだし。
そんなの、十年も前の話じゃないか。
俺は気が短いから、どうしても一つの所で長続きしない。でも、今度クビになつたら、おまえを裏切ることになる。そう思つて、必死で働いたんだ。
今まで働いてきたのはおまえだし、家が買えるだけの金を稼いだのもおまえだ。もつと誇りを持てよ。
そうだな。俺は今日から一国一城の主になるんだもんな。

雪也 司也 鐘司 雪也 司也 鐘司 雪也 司也 鐘司 雪也 司也 鐘司
はい、辺見工務店です。
お兄さん、僕だよ。
雪也か。どうした、こんな時間に。仕事中じゃないのか?
今、会社。実は今年の正月はそつちへ行けなくなつたんだ。社長のお供でモスクワへ出張することになつて。
モスクワか。いいなあ。ガガーリンはモスクワの西のグジャーツクの生まれなんだ。時間があつたら、行つてみろよ。
そんな暇、あるわけないだろう? 僕は仕事で行くんだから。
重役になつても、あるわけないだろう? 僕は仕事で行くんだから。
そういうこと。
じや、樂はできないな。
お義姉さんによろしく。

鐘司が受話器を置く。雪也が去る。

長門
鐘司

長門
鐘司

そこへ、忠子・二谷がやつてくる。

忠子
長門
鐘司

長門が去る。

鐘司
忠子
鐘司

(二谷に)お待たせしました。
こちらは笛田税務署の二谷さん。
(二谷に)初めまして、社長の辺見鐘司です。うちの会社が税務調査を受け

雪也君、モスクワへ行くのか?
そうだよ。あいつも今や樫本計算機の専務取締役だ。一年中世界を飛び回つ
てる。去年、ハワイに別荘を買ったそうだ。
大したご身分だな。おまえだつて、お父さんの跡を繼がずに、東大へ行つて
れば、今頃は世界を飛び回つていたかもしないのに。
でも、俺は跡を継いだ。後悔はしてないのだ。
これであの家はおまえのものだ。
。(オーケイ。契約書も頭金も問題
なし。

鐘司、ちよつといい? お客様がいらつしやつたんだよ。

(鐘司に)それじや、俺は帰るよ。そのうち、暇ができたら、家に遊びに来
てくれ。女房の手料理をご馳走するから。
ミエさん、料理はうまくなつたのか?
近頃、ようやく人間が食えるものになつてきた。楽しみにしててくれ。

二谷

るのは、今回が初めてなんですよ。どうか、お手柔らかにお願いします。

鐘司

私は今年一年の御社のお金の出入りを確認するだけです。不審な点が何もないれば、調査は一日で終わります。

忠子

それでしたら、ご安心を。僕は疚しいことは何もしていません。

二谷

御社は最近十年の間に、事業規模を飛躍的に拡大させていきますね。それなりに、純利益は一向に伸びない。常に倒産一步手前の状態だ。

忠子 鐘司

うちの会社は、いい家をより安くがモットーなんです。だから、会社が大きくなつても、儲けは全然増えなくて。そう言つて、増えた分の収入を、自分のポケットに入れる経営者はたくさんいます。

二谷が去る。

鐘司 忠子 鐘司 忠子

全く、失礼な男だね。頭から疑つてかかってるよ。
それがあの人の仕事だからね。でも、帳簿を見れば、きっとわかつてくれる。
これ、長門の家の契約書と頭金。（封筒を差し出す）
(受け取つて)五百だね? すぐ銀行に入金してくるよ。(よろめいて、
うずくまる)
どうしたの?

ちよつと目眩がして。昨日から風邪気味なんだよ。

無理しないで、帰つたら？ 税務調査の最中に早退けするわけには行かないよ。もう大丈夫。落ち着いた。じや、僕はちよつと出かけてくる。堀田さんに呼び出されちゃつて。また何か企んでるのかね？ おかしなことを言つてきたら、ガツンと言い返してやりな。そんなことができるわけないだろう。向こうは大会社の社長だよ。

忠子が去る。
② 堀田の会社。堀田がやつてくる。

よく來たな、鐘司君。忙しいところを呼びつけて、済まなかつた。忙しいのは堀田さんの方でしきう。次の市長選挙に出馬すると聞きましたがそれは根も葉もない噂だ。私は政治には興味がないよ。君の方こそ、近い将来、どうだね。君なら市長の仕事は立派につとまるだろう。

そこへ、ゆかりがやつてくる。カツプを二つ持つている。

いらっしゃいませ、辺見先輩。

久しぶりだね、ゆかり君。旦那さんは元気？ 知りません。半年前に別れたんで。また？ あ、ごめん。全く、ゆかりにも困つたものだ。今度の男ならこのじやじや馬を乗りこなせ

堀鐘ゆ鐘ゆ
田司か司か
りり

堀鐘田

忠子鐘忠子
鐘司忠子

堀田
ゆかり

悪いのは私だけじゃありません。

悪いのは私だけじゃありません。

悪いのは私だけじゃありません。もちろんそうだ。しかし、おまえの相手をするには、よほどの包容力がない

と。そう、たとえば、鐘司君のような。

僕には包容力なんてありませんよ。それで、今日のご用件は？

君が秋葉に建てた分譲住宅、大成功だつたようだな。

秋葉ハイツですね。おかげさまで、十二戸が完売しました。今はそのすぐ近くに、杏が丘ハイツというのを作っています。こっちは十三戸の予定です。近次から次へと大したものだ。今や、辺見工務店は笛田の町を代表する建設会

社に成長したな。

それほどではあります。うちの一戸建てばかりで、大きな建物はやりませんし、価格も低く抑えてますので。

しかし、お父さんの頃と比べれば、倍以上の大きさになつた。君には経営の才能がある。このまま建設会社の社長で終わるのは惜しい。

だから、市長になれ。

今、将来の話だ。

今、君に頼みたいのは、別のこと。私の右腕になつてほしい。

それは将来の話だ。

君に頼みたいのは、別のこと。私の右腕になつてほしい。

君に頼みたいのは、別のこと。私の右腕になつてほしい。

君に頼みたいのは、別のこと。私の右腕になつてほしい。

君に頼みたいのは、別のこと。私の右腕になつてほしい。

君に頼みたいのは、別のこと。私の右腕になつてほしい。

業務は新規事業の開発。うちの会社は長野県下に様々な物件を持つている。それを自由に使つてい。

堀鐘
田司

堀鐘
田司

堀鐘
田司

堀鐘
田司

堀鐘
田司

堀鐘
田司

鐘司が去る。

堀鐘司 堀鐘田 堀鐘司 堀鐘田 堀鐘司 堀鐘田 堀鐘司 堀鐘田 堀鐘司 堀鐘田 堀鐘司 堀鐘田 堀鐘司 堀鐘田

僕の自由に？ 分譲住宅でもマンションでも、好きなものを作りたまえ。ただし、今までとは規模が違うぞ。君の手で一つの町を作るんだ。

僕の手で町を？ どうだ。うんと言つてくれるかね。

夢のような話です。でも、その町に作る家の値段は？

会社には格といいうものがある。天下の堀田不動産が安売りをするわけには行かない。

儲からなければダメですか。

私は社員の生活を守る責任がある。

その言葉は前にも聞きました。僕も社長ですから、当然、社員のことは考えています。でも、それ以外の人のことを考えないわけには行かないんですよ。

それ以外の人とは？

お客様は、まだそんな甘いことを言うのか。資本主義は弱肉強食だ。

君という男は、まだそんな甘いことを思つている人たちです。

益を挙げない会社はすぐに淘汰されるんだ。

僕はそうは思いません。君の会社は確かに大きくなつた。しかし、経営は相変わらず火の車。

。鐘司君。君の会社は確かに大きくなつた。しかし、経営は相変わらず工務店は絶対に潰しません。

よく考えろ、鐘司君。君の会社は確かに大きくなつた。しかし、経営は相変わらず工務店は絶対に潰しません。

だからこれまで。失礼します。

堀 ゆ 堀 ゆ
田 か 田 か
田 り り

・
ゆ
か
り
が
去
る。
世 そ 月 ほ
れ が 給 ら
中 中 百 ね 。
は が 辺 万 。
そ は 見 を
ん 先 跡 だ
な 輩 の か
に と は つ
甘 と は て
く こ れ た
な う い っ
い こ ろ て
。 な ま で
今 な ん で
に な ん す
思 な ん い
い す い
知 な ん い
ら い つ
せ ま で
て や も
や る ち
。 变 カ
わ ら 全
ら な く
な い 成
い と 長
な が し
い い い
。 い 。

鐘司がやつてくる。

プロキオン　辺見さん、本当のことを言つてください。月給百万と言われた時、ちよつと心が動いたでしよう？

鐘司　ええ、実は。それだけの収入があれば、妻と娘を好きな所へ連れて行けますからね。

プロキオン　弟さんのように、ハワイに別荘が買えるかも知れない。

鐘司　そんなものはほしくありませんよ。僕が今、一番行きたい所は、ディズニー

ベテルギウ　ランドなんですね。

シリウス　今年の四月に、東京にできたやつですね？

鐘司　所長、あそこは正確には千葉県です。

プロキオン　娘の鈴花が行きたいって言つてるんですよ。時間も金もないので、そのうち

そのうちつてごまかしてくるんですが。だから逃げ出します。

鐘司　それから船長が自分の船一時後、母の忠子は長門から受け取った五百万を持って、銀行

鐘司　へ行きました。船長が自分のかわり、辺見工務店はなくなります。

プロキオン　そのかわり、辺見工務店に入れば、いつでも行けたのに。

鐘司　船長が自分のかわり、辺見工務店はなくなります。

プロキオン　それから船長が自分の船一時後、母の忠子は長門から受け取った五百万を持って、銀行

①一九八三年十二月二十四日昼、銀行。忠子・川地がやつてくる。椅子に座る。

（パンフレットを見ながら）ほう、これが今、工事中の分譲住宅ですか。
杏が丘ハイツです。中の地図を見てください。その場所に見覚えはないですか？

秋葉の真ん中ですね。そうか、わかった。洪水時の避難所があつた場所だ。
そうです。あそこは食品会社の倉庫だったんですが、建物が古くなつたんで、
移転することになつたんですね。それで、跡地を買わないかつて、社長さんが
電話してくださつて。相場よりずっと安い値段で譲つてくださつたんです。
社長さんは辺見君のことが気に入つてたんでしょうね。
その辺りは高台なので、見晴らしがいいですよ。川地さんも一軒いかがですか？
うちは建て直したばかりです。お宅の会社で。

そこへ、堀田・ゆかりがやつてくる。忠子が封筒を椅子に置いて、立ち上がる。

あら、堀田さん、こんな所でお会いするなんて。先程、鐘司がお宅の会社へ
伺つたんですが。
來たよ。しかし、すぐに帰つた。
ご用件は何だつたんです？ うちの会社が何かご迷惑でもおかけしましたか？
知りたければ、鐘司君に聞きたまえ。
そういうぞ。これ、今、工事中の杏が丘ハイツのパンフレットです。よかつたら、
どうぞ。（パンフレットを差し出す）

忠子 堀田

ゆかり

結構。そう言わずに、どうぞ。（パンフレットを押しつけて）この土地は前々から堀田さんが狙つていたそうですね。それなのに、ウチの会社がいただいちやつて、申し訳ありません。でも、別に横取りしたんじやないですよ。持ち主の方から、鐘司に買ってくれと言つてきました。

忠子がよろめいて、うずくまる。川地・ゆかりが駆け寄る。

川地 忠子

忠子さん、どうしたんです。
大丈夫です。昨日から風邪気味なだけで。（気を失う）
忠子さん！（忠子の額を触つて）ひどい熱だ。（ゆかりに）奥で休ませても
らいましょ。

川地・ゆかりが忠子を抱えて去る。堀田が椅子の上の封筒を持つ。中を見る。周囲を見回す。そこへ、ゆかりが戻ってくる。

堀田 ゆかり

社長、どうかしましたか？
何でもない。急用を思い出した。会社へ戻るぞ。
でも、支店長さんとの約束は？
後で詫びの電話でも入れておけ。行くぞ。

堀田・ゆかりが去る。

鐘司

(ベテルギウスに) 叔母が休憩室で目覚めたのは一時間後でした。すぐに、封筒がないことに気づきました。フロアに戻ると、椅子の上には何もなかつた。封筒は消えていた。
その封筒には、長門さんの家の頭金が入っていたんですね?

ベテルギウ

ええ、五百万。周りを探しても、どこにもない。すぐに警備員に頼んで、銀行内を探してもらいましたが、やっぱりない。

銀行へ行く途中で落したって可能性はないんですか?

叔母も同じことを考えたようです。銀行を出て、うちの会社へ向かいました。でも、見つかなかった。

プロキオン

②会社。忠子がやつてくる。

鐘司 長門の五百万は、今月の銀行への返済に当てるはずだつたんだ。支払いの期限は今日。今日中に支払わないといと、うちの会社は倒産するんだよ。

わかつてゐるよ、それぐらい。

だつたら、もう一度よく考えてくれ。ここを出る時、封筒はどこに持つた?

バッグを肩にかけて、封筒は両手で持つた。

途中で誰かに会わなかつた?

知り合いに何か会つた。立ち話をして、杏が丘ハイツのパンフレットを渡した。

その時、下に落としたのかかもしれない。知り合いに会つた場所は覚えてる?

鐘司

忠子

そこへ、二谷がやつてくる。

五人ぐらいの人に会ったんだよ。覚えてるわけないよ。

二鐘司二谷忠子

どうかしたんですか？
いや、別に。何かご用ですか？
一つお聞きしたいことがありますか？
ですが、どこにあるかご存じですか？

それでしたら、今、叔母が持っています。叔母さん。

でも、鐘司。

いいから、お渡しして。
(二谷に差し出して)どうぞ。

顔色がよくありますね。

いいえ、別に。何かあつたんですか？

二谷さん、うちの帳簿に何か不審な点はありましたか？
今のところは何も。しかし、御社の経営状態は大体把握しました。正直言つ
て、今まで倒産しなかつたのはマジックですね。

社員が一丸となつて努力してきた結果です。

それが一体何なのか、私の手で必ず突き止め

二谷が去る。

忠子

まずいよ、鐘司。あの通帳を見たら、五百万を入金してないことがバレちゃうよ。

でも、渡さないわけには行かなかつた。

こうなつたら、正直に話をしよう。私が五百万を失くしたつて。
あの人気が信じてくれると思うかい？

話をする前に、警察に届けよう。遺失届を出すんだよ。そうすれば、あの人

だつて。
それも隠蔽工作だと思われたら？とにかく、僕らは五百万を見つけ出し
かしないんだ。もう一度、銀行へ行つてくる。途中に落ちてる可能性がある。
道路だつたら、私がここへ帰つてくる時、探したよ。
見落としたかもしれないじやないか。

わかつた。私も行くよ。

また倒れたらどうするんだ。叔母さんは家へ帰つて、休んでくれ。

忠子が去る。

ベテルギウ
銀行までの距離はどれぐらいだつたんですか？
およそ八百メートル。歩いて、十分の距離でした。それを僕は一時間かけて

歩きました。でも、見つからなかつた。
誰かが拾つて、持つていつたとは考えなかつたんですか？

プロキオン
封筒。もちろん、警察へ行つて、拾得物はないか、聞きました。
そうでもしょうね。あるわけなかつた。拾得物はないか、聞きました。
やむを得ず、警察へ行つて、拾得物はないか、聞きました。五百万が入つた

プロキオン

鐘司
鐘司

鐘司
鐘司

鐘司
鐘司

鐘司
鐘司

鐘司

僕はもう一度、銀行から会社へ向かいました。また一時間かけて。空はだんだん暗くなつていきました。会社に辿り着いた時、僕はぐつたりと疲れています。

そこへ、忠子がやつてくる。

鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子

お帰り。やつぱり、なかつたんだね？
まだここにいたのか。僕は帰れって言つたのに。
家に帰つても、ジツとしていられないよ。ねえ、鐘司、もう諦めよう。
諦めたら、どうなる？ 僕は脱税の容疑で逮捕される。会社は倒産する。社員は全員失業する。何もかもおしまいになるんだ。
実際、脱税はしてないんだから、罪にはならないよ。会社の方は、今晩中にお金を用意すれば。
どうやつて？ 僕にはそんな貯金はない。叔母さんだつて、ないだろう？
誰かに貸してもらおう。そうだ、雪也に頼めばいいじやないか。
雪也は東京だ。今から電話しても、間に合わない。

そこへ、二谷がやつてくる。

辺見さん、また一つお聞きしたいことが出てきたんですが。
何でしよう。何でもお答えしますよ。
本日、五百万円が入金されたはずなんですが、その金がどこにあるか、わからぬんですよ。通帳にも記載がないし、金庫にも見当たらぬい。

二鐘二谷司

鐘司

二谷

二谷が去る。

おかしいな。僕の机を探してみます。見つかったら、すぐに持つていきますから。もうすぐ五時だ。なるべく急いでくださいよ。

どうするんだよ、鐘司。

鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子

鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子

鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子

鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子 鐘忠子

僕は銀行へ戻る。何のために。どうするんだよ、鐘司。
支店長に頼むんだよ。支払いを待つてくれって。二谷さんに聞かれたら、急用があつて出た、すぐに戻るつて言つてくれ。
私がまかせないよ。できるだろう、それぐらい！ 金を失くし
ごめんなさい。ごまかせないよ。何が何でも！

忠子が去る。

プロキオン
鐘司

それで、支店長は支払いを待つてくれたんですか？
その支店長は今年の四月に転任してきたばかりだった。まだ付き合いが浅かつたんです。最初はすぐに断られたんですが、何度も頭を下げたら、明日の正午までなら待つてもいいと。

ベルギウ
鐘司

たつたの半日しか伸ばしてくれなかつたんですか？
僕はその足で別の銀行へ行きました。五百万の融資を頼みに。でも、社内で検討してからでないと、金は出せないつて。

ベルギウ
鐘司

僕もそう思つて聞いてみたら、最低一週間はかかるだろうつて。
一週間？それじや、間に合わない。僕は自宅へ向かいました。

①一九八三年十二月二十四日夕、辺見宅。
辺見鈴花がやつてくる。

お父さん、お帰りなさい！
ただいま。鈴花、お母さんとおばあちゃんは？
食事の支度。ねえ、お父さん、これを見て。（ぬいぐるみを差し出して）洋代おばさんのプレゼント。ついさつき、速達で届いたの。

鈴鐘鈴花
司花

鐘司
花司

鐘司
花司
鐘司
花司
鐘司
花司

そこへ、碧・友枝がやってくる。

どうしたんだい、鐘司。大きな声を出して。

何でもない。鈴花、怒って悪かったな。ほら、鈴を貸してごらん。

(鈴を差し出す)
(受け取つて)お父さんは今、本当に忙しいんだ。だから、明日の朝までに

つけておく。それでいいだろう?
(うなずく)

(鐘司に)お帰りなさい、あなた。会社で何かあつたの?
別に何も。これからまた会社へ戻らなきやいけない。食事は先にみんなで食

べてくれ。
鐘司が電話をかける。別の場所に、洋代がやってくる。碧・友枝・鈴花は去る。

洋 鐘 洋 鐘 洋
鐘 司 代 司 代

はい、樺本です。
あ、お義兄さん。
ああ、届いた。鈴花のやつ、とつても喜んでるよ。それより、雪也に話があるんだけど、帰ってきてる？

鐘司です。

鈴花ちゃんへのプレゼント、届きました？

雪也に話があ

洋 鐘 洋 鐘
鐘 司 代 司

いいえ、今頃は船の上です。知り合いの国會議員が、クリスマスを海の上で祝おうって言い出して、船上パーティーを企画したんです。私は船に弱いから断つたんですけど、雪也は断り切れないで雪也と一緒に船の上です。

明日の朝にし

洋 鐘 洋 鐘
鐘 司 代 司

急いで雪也と話がしだすけど、雪也は断り切れないで雪也と一緒に船の上です。

明日の朝にし

鐘司が電話を切る。洋代が去る。

鐘司
ベテルギウ

東京から笛田まで、どれぐらいかかるんですか。
どんなに車を飛ばしても、三時間。雪也のことは諦めるしかありませんでし

プロキオン

でも、知り合いは他にもいたんでしょう？ 東京じゃなくて、笛田にも。僕は片つ端から電話をかけました。親戚、高校時代の友人、取引先の社長。

プロキオン

でも、留守だつたり、そんな大金は無理だつて断られたり。急に五百万は無理でしよう。でも、五人から百万ずつ借りれば。

シリウス

そんなことは僕だつて考えました。だから、百万でいいって言つたんです。でも、うちの会社の経営が苦しいことはみんな知つてます。貸しても返つてこないかも知れない。そう思つたんだと思ひます。

そこへ、碧・友枝・鈴花がやつてくる。

ねえ、あなた、会社の経営が危ないの？
それは君が気にすることじやない。
でも、放つておけない。お願ひだから、本当のことを話して。
会社へ戻る。今夜は遅くなるから。
待つてよ、あなた。お金が必要なんでしょう？ 私の実家に頼めば、少しぐらいなら出せると思う。ねえ、いくら必要なの？
五百萬だよ、五百万！ そんな大金、君の親が持つてるのか？
お母さんは碧さんのご両親をバカにするんじゃないよ。
おまえさんは碧さんてくれ。ちがわからぬのかい？ おまえのことを助けたい。
んだけよ。

誰が助けてくれって言つた？　俺は俺の力で何とかしてみせる！

（泣き出す）

鈴花、あなたは自分の部屋へ行つてなさい。

泣くな、鈴花。

鈴花、おばあちゃんと一緒に行こう。

（鈴花に）泣くなと言つてるのが、聞こえないのか！

お父さんじやない。

何だと？

こんな人、お父さんじやない！

鈴花！（鈴花を抱き締める）

鐘司、おまえのお父さんはどんなに苦しくても、子供に八つ当たりはしなか

つたよ。おまえは父親失格だ。

② 堀碧田・友枝・鈴花が去る。
堀田不動産。堀田ゆかりがやつてくる。

（2）

いつもはこんな時間までいないんだがな。君が来るのを待つていたんだ。
なぜ僕が来ると知つてたんですか？

別に知つていたわけじやない。しかし、来ると確信していた。昼間の話がもう一度したいんだろう？　（うなづく）

昼間の話？　（うなづく）

惚けるのはやめたまえ。君に、うちの会社の事業部長になつてくれと頼んだ
だろう。その後、冷静になつてみて、考えが変わったんじやないか？

（うなづく）

鐘司

いいえ、僕がここへ来たのは全く別の用件です。堀田さんに折入つて、お願
いしたいことがあります。

お金を借りたいんです。五百万。できれば、今すぐに。

返済は。何かね。いや、半年以内に必ずお返しします。

担保は。自宅も会社も、既に銀行の抵当に入っているので、何もありません。

担保もないのに、よく金を貸してくれなんて言えたな。

大した額じやありませんが、僕の生命保険があります。（紙を差し出して）

これを解約すれば、百万ぐらいには。それでは足りない。子供にもわかる計算だ。

社長、辺見工務店には長年の実績があります。五百万程度なら、お貸しして

もいいのでは。ゆかり、おまえに意見は聞いてないぞ。

わかつています。でも――

君は今日まで本当によく頑張ってきた。でも、もう十分だろう。こ

とで起きぱり諦めて、うちの会社へ来い。

条件は昼間提示した通り。家族を路頭に迷わせずに済むぞ。

それができません。君は今日まで本当によく頑張つてきた。でも、もう十分だろう。こ

うちがも、その会員は？ 彼らに迷惑をかけるわけには行きません。

うなら、一つだけ譲歩しよう。五百万は貸す。そのかわり、君は

来るんだ。ただし、月給は五十万。五百万も貸すんだから、君文は

堀鐘堀鐘
田司田司

堀ゆ堀
田か田
り

鐘堀鐘堀
田司田司

句はないな?

僕がいなくなったら、辺見工務店はすぐに潰れます。結局、同じことじやないですか。
まだわからないのか、鐘司君。私は君の会社が目障りなんだ。今すぐにでも潰したいんだ。
社長、いくら何でも、それはひどすぎます。

鐘司が去る。

辺見先輩、ちょっと待つて!

やめろ、ゆかり。
でも、私には放つておけません。
あの男を助けて、何になる。あいつはおまえじやなくて、別の女を選んだんだぞ。
そんなことはわかつてます。でも、私はあの人之力になりたいんです。
しかし、あいつはこれで終わりだ。おまえもあいつのことは忘れろ。その方がおまえのためだ。

③ 堀田・ゆかりが去る。
④ 鐘司がやつてくる。反対側から、川地がやつてくる。

珍しいな。こんな時間に君が来るなんて。

夜は酒を出さんですね？
最近、東京ではカフェバーっていうのが流行ってるらしい。その真似だよ。
ウイスキーをください。ストレートで。

わかつた。

川地さん、神様に祈ったことはありますか？
しょつちゅう祈つてるよ。店を黒字にしてください。息子を高校に合格させてください。
女房の機嫌を直してください。

川地さん、神様に祈つたことはありますか？
しょつちゅう祈つてるよ。店を黒字にしてください。息子を高校に合格させてください。
女房の機嫌を直してください。

川地さん、神様に祈つたことはありますか？
しょつちゅう祈つてるよ。店を黒字にしてください。息子を高校に合格させてください。

川地さん、神様に祈つたことはありますか？
しょつちゅう祈つてるよ。店を黒字にしてください。息子を高校に合格させてください。

鐘司 鐘地 司

鐘司 鐘地 司

鐘司 鐘地 司

そこへ、長門がやつてくる。

（両手を組み、目を閉じて、祈る）
はい、お待たせ。（グラスを置いて）何を祈つてるんだ？
何でもありません。（グラスを呷つて）おかわり、いいですか？（グラスを差し出す）

（受け取つて）もちろんいいが、もう少し味わつて飲んだらどうだ。

川地 長門 長門 川地 長門

鐘司、こんな所にいたのか。
どうした、長門君。辺見君を探しに来たのか？
碧から電話がありましてね。会社へ戻るつて言つたのに、電話してみたら、
いなかつた。心配だから、探してくれつて。（鐘司に）夫婦喧嘩でもしたのかね？（グラスを置いて）それとも、会社で

長川鐘川鐘
門地司地司

川鐘川鐘川鐘長鐘長鐘長鐘川長鐘
地司地司地司門司門司門司

何かあつたのか？ そう言えば、昼間、忠子さんが銀行で熱を出して、倒れたな。その後、具合はどうだ。

（グラスを呷つて）もう一杯ください。（グラスを差し出す）

おいおい、そんな調子で飲んだら、体を壊すぞ。

（グラスを突き出して）いいから、ください！

（グラスを呷つて）もう一杯。（グラスを差し出す）

やめろ、鐘司。 そうだよ、辺見君。何があつたか知らないが、やけ酒も程々にしないと。

（川地の腕を掴む）

（長門の手を振り払つて）放せ！（瓶を呷る） おい、鐘司。（鐘司の腕を掴む）

（加減にしろよ、鐘司。こうなつたら、力づくで連れて帰るからな。）

帰れないんだよ。 え？ 金を手に入れないと帰れないんだ。

一体何があつたんだ。よかつたら、話してくれ。力になるから。

私はこの店を建て直したばかりだ。そんな大金は手元にないよ。 今、力になつて言つたじやないか。（川地の腕を掴む） しかしお金を手に入れないと帰れないんだ。 だから、百万貸してください。たつた今。 しあわせになつて、私にだつて、できることとできないことが。

長門
鐘司

(鐘司の腕を掴んで) やめろ、鐘司。
(長門の手を振り払つて) 放せ！

長門が鐘司を殴る。鐘司が倒れる。

川地
長門
川地

大丈夫か、辺見君。(長門に) 何も殴らなくとも。
(鐘司に) 濟まなかつた。でも、今夜のおまえはおかしいぞ。
(鐘司に) さあ、立ちたまえ。

川地が鐘司を立たせる。鐘司が川地の手を振り払い、去る。

川地
長門
川地

辺見君！(長門に) 追いかけた方がいいんじやないか？
一人になつて、頭を冷やした方がいいんですよ。
彼との付き合いは二十年以上になるが、あんな姿を見るのは初めてだ。よほ
ど辛い目に遭つたんだろうな。

④ 橋
川地・長門が去る。
橋。鐘司がやつてくる。

プロキオン
シリウス
ベテルギウ

そうして、この橋にやつてきたんですね？
笛田橋は全長二〇七メートル、幅員六、五メートル。笛田市内で一番大きな
橋です。
(鐘司に) あなたはここへ自殺するために来たんですね？

鐘司

ベルギウ

そこまではつきり決めていたわけじやありません。ただ、もう何もかもがいやになつていなんです。僕はさつき、神様に祈りましたよね？ 何て祈つたかわかりますか？

助けを求めたんじやないですか？

そうです。僕は「神様、助けてください」と祈つたんです。でも、結果はどうですか？ 僕は長門に殴られた。僕が手に入れたのは、金じやなくて、殴られた痛みだった。おかげで、思い知つたんです。やっぱり、神様なんていなあんだつて。

ベルギウ

神様は天国にいらっしやいますよ。

鐘司 でも、僕を助けてはくれない。その時、生命保険のことを思い出したんです。
プロキオン 僕が死ねば、一千万が下りる。これで、会社は潰れずに済む。
鐘司 でも、あなたが死んだら、会社は潰れる。堀田さんにそう言つたじやないですか。
鐘司 堀田さんはこうも言いました。君は今日まで本当によく頑張つてきた。でも、もう十分だろうつて。

プロキオン 辺見さん。

鐘司 碧、鈴花、お母さん、叔母さん、社員のみんな。僕を許してくれ。

プロキオン

鐘司 が欄干から身を乗り出す。プロキオンが鐘司の腕を掴む。鐘司が振り払う。プロキオンが鐘司に掴みかかる。鐘司がかわす。プロキオンが橋から落ちる。鐘司が橋の下を見る。下へ飛び下りる。

①一九八三年十二月二十四日夜、バス停。

ベルギウ　辺見さん、ありがとうございました。
鐘司　長い話になるだろうとは思つていましたが、まさか一時間以上もかかるとは。

シリウス　シリウスさんでしたよね？　記録、大変だつたんじやないですか？

ベルギウ　辺見さん、天国へ行きたいという気持ち、今も変わりませんか？
鐘司　もちろんです。あなたの方はいかがですか？　僕の話に納得していただけましたか？

プロキオン　私は納得できませんでした。だって、あなたはたつた五百万の金のために死のうとしてるんだ。バカバカしいとは思わないんですか？
鐘司　思いません。僕が死ねば、家族に一千万が支払われるんだから。
プロキオン　あなたの命に比べたら、一千万だつて、安すぎる。

金の話は本当はどうでもいいんです。僕はもうこれ以上、生きていたくない
んだ。碧さんにも鈴花ちゃんにもお母さんにも会えなくなるんですよ。
構いません。

忠子さんにも雪也さんにも洋代さんにも会えなくなるんですよ。

ベルギウ

鐘司

ベルギウ

鐘司

僕は彼らに何をしました？怒りを撒き散らして、傷つけた。いくら金がな

鐘司 プロキオン

くて困つてからつて、ひどすぎる。許されることじゃない。許されますよ。あなたが心を込めて、謝れば。

鐘司 ベテルギウ

もしみんなが許してくれたとしても、僕自身が許せない。僕はいなくなつた方がいいんだ。

鐘司 シリウス

いなくなつた方がいい人なんていませんよ。この僕がそうです。僕の人生は無駄だった。あの日から、間違つた道に進んだんです。

プロキオン

一九六一年の四月ですか？

鐘司 ベテルギウ

ガガーリンのニュースを聞いて、野球部を辞めた日からです。東大を目指して、勉強したのも無駄だった。父の跡を継いで、辺見工務店の社長になつたのも無駄だった。

鐘司 シリウス

なぜ無駄だつたと断言できるんです。苦労して苦労して、それでも幸せになれなかつたからです。もしそれが事実だとしても、あなたはたくさんの人を幸せにしましたよ。そうですね、シリウス？

鐘司 ベテルギウ

家族、友人、社員、お客さん。ここに書いただけでも、百人以上の人人が幸せになつています。

僕の方こそ、聞きたい。なぜ幸せになつたと断言できるんです。たとえば、碧だ。僕は碧をいまだに新婚旅行に連れていくつていんですよ。僕なんかと結婚しなければ、ずっと幸せになれたのに。

そうでしたようか。そう決まつてます。僕は碧を幸せにしてない。むしろ、不幸にしたんだ。

他の人たちだつて、同じです。僕がいなければ、もつと幸せなつていた。僕

プロキオン

鐘司 だつたら、試しに、あなたが生まれなかつた世界を見せてあげましよう。

プロキオン

鐘司 僕が生まれなかつた世界？

プロキオン

鐘司 いいですか、所長？

プロキオン

鐘司 わかりました。許可しましよう。でも、辺見さん、これだけは知つておいて

ベテルギウ

鐘司 本當ですか？

ベテルギウ

鐘司 しかし、夜の九時頃から、この監視所にたくさんの祈りが届いたんです。そ

ベテルギウ

鐘司 れはみんな、長野県の笛田市に住む人たちからのものでした。その数、実に

ベテルギウ

鐘司 千以上。祈りの中身はみんな同じでした。「辺見鐘司を助けてください」

ベテルギウ

鐘司 嘘だ。これほどの数の祈りを無視するわけには行きません。私は直ちにプロキオン

ベテルギウ

鐘司 を地上へ送りました。残念ながら、あなたを救うことには失敗しましたが。
（鐘司に）私は何としてもあなたを助けなければならぬんです。さあ、つ
いにきてください。
どこへ行くんですか。
だから、あなたが生まれなかつた世界ですよ。

ベテルギウ

鐘司 行だつてらっしゃい、辺見さん。
あなたが生まれなかつた世界ですよ。

ベテルギウ

鐘司 ② バーの前。
鐘司・プロキオンが歩き出す。シリウス・ベテルギウスが去る。

鐘司

プロキオン

ここは？
あなたが生まれた世界では、川地さんのお店でした。

鐘司

プロキオン

店の名前が変わつて、「オードリー」じゃなくて、「マリリン」？
中もすっかり変わつてますよ。入つてみますか？

鐘司

プロキオン

バー。長門がカウンターの中でコップを磨いている。小林・宍戸が椅子に座つて、酒を飲んでいる。

鐘司

プロキオン

長門、おまえ、どうしてここに？
誰だ、あんた。

鐘司

プロキオン

何を言つてるんだ。しらばつくれるのはやめろよ。
俺はこう見えて、物覚えがいいんだ。一度来た客の顔は絶対に忘れない。
しかし、あんたの顔には見覚えがない。

鐘司

プロキオン

コ一ヒーをください。（鐘司に）あなたは何にします？
(長門に) ジヤ、僕もコ一ヒーを。

鐘司

プロキオン

ここはバーだぜ。コ一ヒーが飲みたけりや、喫茶店に行けよ。
今、仕事中なんですよ。ジヤ、追加でピザをお願いします。

鐘司

プロキオン

コ一ヒー二つとミツクスナツツね。
(鐘司に) 長門さんがあなたを知つてゐるわけないでしよう？ あなたはこの

鐘司

プロキオン

世界では生まれないんだから。あなたはこの
長門は生まれてないんだから。
「オードリー」は二十二年前に潰れました。ガス爆発が起きて、多数の怪我

人が出たんです。川地さんはその賠償金を払うために、店を売りました。買ったのは、堀田不動産。堀田さんは店をバーに改装して、名前を「マリリン」に変えました。店長に雇われたのは、長門さんでした。僕の知ってる長門は、あんな無愛想な男じやない。僕の給料は安いんです。長門さんはいやいや仕事をしてるんですよ。

そこへ、川地がやつてくる。掃除用具を持っている。

川地、こっちに来い。

トイレ掃除は終わりました。そろそろ帰つてもいいですか？

今朝、俺が何て言つたか、覚えてるか？換気扇の修理をしろと言つたよな？

すみません、忘れてました。でも、あれは時間がかかるので、また明日にしつていいでですか？

ダメだ。今すぐやれ。

でも、今夜はクリスマスイブじゃないですか。女房と子供が家で待つてるんですよ。

(川地の顔にコップの水をかけて) クビになりたくなかつたら、今すぐやれ。

待てよ。今のはひどすぎるんじゃないか？ 川地さん、これで拭いてください。(ハンカチを差し出す)

あんたは関係ないだろう。俺のすることに文句があるなら、出ていいだろ。川地さんに言えばいいだろ。川地さんに八つ当た

鐘 長門 鐘 長門 鐘 長門 鐘 長門 鐘 長門

鐘 司 プロキオン

りするのはやめろよ。

どうした、マスター？

長門 小林 長門

こいつが俺のやり方にケチをつけやがって。（鐘司に）聞こえなかつたのか？
俺は出ていけと言つたんだ。（鐘司に）マスターの命令には従つた方がいいな。それとも、力づくで追い
出してやろうか？

プロキオン

行きましょう、辺見さん。
長門、おまえはそんなやつじやないはずだ。
さあ、辺見さん。

③会社の前。

鐘司・プロキオンが店の外に出る。川地・長門・小林・宍戸が去る。

鐘司　ここは僕の会社があつた場所ですよね？

プロキオン　ええ。でも、この世界では違います。

鐘司　お父さんが亡くなつた後、会社は忠子さんが引き継ぎました。しかし、あの
人に経営は無理だつた。わずか一年で会社は倒産。建物は堀田不動産が買い

取りました。また堀田不動産も潰れたんですね？

鐘司　あなたといふのはやめろよ。
プロキオン　あなたといふのはやめろよ。
あなたといふのはやめろよ。

あなたといふのはやめろよ。
あなたといふのはやめろよ。
あなたといふのはやめろよ。

あなたといふのはやめろよ。
あなたといふのはやめろよ。
あなたといふのはやめろよ。

鐘司
プロキオン

ここではどんな商売をしてるんです。
広告代理店です。社長はなんと、ゆかりさんなんですよ。堀田さんに頼んで、
ここに自分の会社を作つたんです。中に入つてみますか？

会社。ゆかりとミエが仕事をしている。

ミ ゆ ミ プ ミ
エ カ エ ロ エ
り キ オ ン

ミ ゆ ミ プ ミ
エ カ エ ロ エ
り キ オ ン

昔、ここに辺見工務店て会社があつたでしょ？ その会社を経営していた
人の息子ですよ。私はその友人です。実は、彼がお父さんの会社があつた場
所を見たいと言い出しましてね。それで、お邪魔したというわけです。
その会社は倒産したんですか？ ええ。彼のお父さんは病気で亡くなつたので。
いいじやない。本当のことなんだから。（プロキオンに）二人で始めた会社
も今年いっぱいでおしまいなんですよ。

（ミエに）知つてる？ 箕田高校で、君たちの二年上だつた。
辺見鐘司。笛田高校で、君たちの二年上だつた。
（ミエに）君、君は変わらないな。そつちにいるのはミエ君か？
私たちのこと、ご存じなんですか？ 失礼ですけど、お名前は？
ああ、もちろんだとも。ああ、もちろんだとも。
（ミエに）君、君は変わらないな。そつちにいるのはミエ君か？
（ミエに）君、君は変わらないな。そつちにいるのはミエ君か？

なんですが、どちらも素人だから、いつまで経っても儲けが出なくて。ついにギブアップつてわけです。
（ゆかりに）堀田さんは助けてくれなかつたの？

（ゆかりに）堀田さんは助けてくれなかつたの？

鐘司 ゆかり 何度かお会いしたことがあるんだ。相変わらず、ご活躍のようだね。
それは昔の話ですよ。伯父は五年ほど前に体を壊して、経営からは手を引き

童
司
言
ジ
ト
シ
シ
ト
ト
。

プロキオン 堀田さんには商売敵と呼べる人がいませんでしたからね。どんなに会社が大

（童司）刃見工務店の話は、伯父から聞いたことがあります。社長の刃見

さんは伯父の高校の後輩で、とても仲がよかつたそうです。若い頃は、辺見

鐘司
知らなかつた。父はそんなことは一言も。

伯父は仕事一筋の人でした。俺の恋人は会社だつて言つて、独身を通したん。

ミ工
社長、そろそろ終わりにして、帰りませんか？

アキラ：仕事中にお邪魔して申し訳ありませんでした。辺見さん行きましょう。

くださいと。

ゆかりました

ゆかり・ミエが去る。

①一九八三年十二月二十四日夜、辺見宅の前。

プロキオン どうです。ここは変わらないでしよう？
鐘司 僕の家だ。中には誰が住んでるんですか？

プロキオン あなたのお母さんと叔母さんが二人で暮らしています。

プロキオン 叔母も？

鐘司 会社が倒産した後、叔母さんは行く所を失くしましてね。それで、お母さんが一緒に暮らさないかと誘ったんです。それから十八年間、ずっと。

二人はどうやつて生活を？

お母さんは食品会社の工場で工員を。叔母さんはいろんな職場を転々としてきました。ボーリング場、ゲーム喫茶、ファーストフード店、レコードレンタル屋。

病気になつたりはしてないでしようね？

ええ。

会つていきますか？

邊見宅。忠子がやつてくる。

忠子
プロキオン

忠子
プロキオン

どうぞ、中へお入りください。
すみません、こんな時間にお邪魔しちやつて。
いいんですよ。うちは私と義姉の二人暮らしで、滅多にお客さんが来なくて。
だから、大歓迎です。今、お茶を淹れますからね。お義姉さん？ お義姉さん？

忠子
プロキオン

あ、どうか、お構いなく。
でも、外は寒かつたでしよう。お茶でも飲んで、体を温めないと、風邪を引きますよ。

忠子
鐘司
プロキオン

私は、風邪を引いたことは一度もありません。
(忠子に)あなたは体の具合は？どこか悪い所はないんですか？
近頃、物忘れがひどくなつてきましたしだけど、それ以外は全然。お義姉さん？ お義姉さん？ お義姉さん？

そこへ、友枝がやつてくる。

友枝
忠子
プロキオン

何ですか、忠子さん？ あら、お客様？
昔、この近くに住んでらつしやつたんですって。(鐘司に) えーと、お名前は？

友枝
プロキオン

芥川です。(友枝に) 実は、私の兄は作家でしてね。次の小説で、自分の子供の頃の話を書くことになつたんです。で、その当時のことをご存じの方に、取材をして回つているところで。
お住まいはどの辺りだつたんですか？
ここからほんの少し行つて、ほんの少し返つてきた所です。

友枝
プロキオン

鐘司枝友（友枝に）ええ、笛田第二それじや、雪也と一緒だつ

雪也のことはござ存じですか？

知つてます。僕は彼の三つ上の学年でした。
そうですか。あの子をご存じなんですか。
雪也君は今、どちらに？ 東京ですか？
雪也は亡くなりました。三年生の時に、川に落ちて。

鐘司友枝鐘司 そうだった。僕も雪也と二人で、秘密基地を作った。あの子と一緒に遊んだことがあるんですか？ええ、何度も。メンコ、ベーゴマ、かくれんぼ、キャッチボール。二人でいろいろな遊びをしました。

二人で？
僕は雪也ととても仲が良かつたんです。
そうですか。じゃ、雪也に代わつて、お礼を言わせてください。一緒に遊ん
でくれて、ありがとう。

② 友枝・忠子去る。
路上。

プロキオン 辺見さん、あなたに罪はありません。雪也君が川に落ちた時、あなたはその
場にいなかつたんだから。

鐘司 僕は母に嘘をつきました。

プロキオン 嘘つて？

雪也といろんな遊びをしたって言ったでしよう？ それは、僕にとつては本
当のことです。でも、この世界では、僕は生まれない。雪也は十歳で亡く
なるまで、ずっと一人だつたんだ。

鐘司 彼には友達もいませんでした。いつも一人で遊んでいました。

プロキオン やっぱりね。あいつは子供の頃、内氣で泣き虫だつたんです。

僕がいないと、

プロキオン 何もできないやつで。これでよくわかつたでしよう。あなたがいたおかげで、雪也君は助かつた。
川地さんも助かつた。長門さんも助かつた。あなたはたくさんの人たちを幸
せにしました。

碧は？ この世界の碧はどうしていりますか？

安心してください。ちゃんと生きてますよ。

鐘司 結婚は？ しませんでした。縁談は何度もありましたが、碧さんはすべて断つた。この
人つて思える人に出会えなかつたんでしょう。

じや、今も実家に？ 行くんですか？ そればやめた方がいい。

鐘司 プロキオン 人つて思える人に出会えなかつたんでしょう。

会いに行くんですか？ それはやめた方がいい。

鐘司 プロキオン じや、今も実家に？ 行くんですか？ そればやめた方がいい。

鐘司 プロキオン 人つて思える人に出会えなかつたんでしょう。

会いに行くんですか？ それはやめた方がいい。

鐘司
プロキオン

なぜですか。碧さんも幸せではないからです。彼女はずつと一人で生きてきた。今日だつ

童司

鳥は今、図書館で

鐘司

走り出す

図書館の前編

あかの。蜂谷碧さんですよね？

ごめんなさい。覚えてません。
そうでしようね。でも、僕はよく覚えてます。授業が終わつた後、図書室へ行くと、あなたはいつも一人で本を読んでいた。地味だけど、キレイな子だなつて思つてたんです。今は全然地味じやなくなつたけど。

鐘碧司

碧 鐘

碧 鐘

碧 鐘

碧 鐘

碧 鐘

碧 鐘

碧 鐘

碧 鐘

碧 鐘 碧 鐘 碧
碧 鐘 碧 鐘 碧
碧 鐘 司 碧 鐘 司

私は家で両親が待つてますので。
そう言わずに、一時間だけ。二人で高校時代の話をしましよう。あなたは坂本九が好きでしたよね?『見上げてごらん夜の星を』とか。

どうしてそれを?
あなたのことは何でも知ってるんです。僕はあなたが好きだったんです。ずっと。

でも、私はあなたのこと何も知りません。

わかつてます。でも、もし高校の時に出会つていたら、僕たち二人は結婚するはずだつたんですね。子供が一人生まれて、鈴花つて名前をつけて。鈴花はとつても生意気な子で、ぬいぐるみの鈴が取れると、「お父さん、つけて」と、僕に鈴を押しつけてきて。そう、この鈴です。(ポケットに手を入れて)あれ?どこへ行つたんだ?

私、帰ります。
待つてください。もう少しだけ、話をしてください。
近寄らないで。それ以上、近寄つたら、大きな声を出しますよ。
放解しないで。それ以上、近寄つたら、大きな声を出しますよ。
放してくれ。僕はただ、君と話したいだけで。(碧の手を掴む)
ください!

そこへ、小林・宍戸がやつてくる。

どうかしましたか?
(鐘司を見て)こいつ、マリリンにいたやつじやないか。
この人がいきなり話しかけてきて。
(鐘司を見て)こいつ、マリリンにいたやつじやないか。

宍戸 碧 小林

碧 宍 碧 宍
戸 戸

(碧に) 大丈夫ですか?
ええ。助けていただいて、ありがとうございました。
あいつ、あなたに何て言つてきただつたつて。
あなたのことは何でも知つて、あなたが好きだつたつて。

小林
プロキオン

貴様!
暴力はやめてください。私たちはもう行きますから。
冗談言うな。おまえら二人とも、警察に突き出してやる。
黙れ! なんだ。僕はただ、碧を励ましたっただけで。

宍戸 司
宍戸 司

宍戸が鐘司に殴りかかる。鐘司が避ける。プロキオンが宍戸の体を掴む。小林が鐘司に殴りかかる。鐘司が避け、小林を殴る。小林が倒れる。鐘司が走り去る。小林が後を追つて、走り去る。プロキオンが後を追つて、走り去る。

プロキオン

僕は何もしない。そうだろう、碧?
だったら、その人から離れる。(鐘司の肩をつかむ)
放せ!(宍戸の手を振り払う)

こいつ、抵抗するつもりか?
辺見さん、行きましょう。

宍戸が鐘司の腕をつかむ。鐘司が振り払う。小林が鐘司に殴りかかる。鐘司が避け、宍戸を突き飛ばす。鐘司が避ける。

碧 宍戸

でも、あなたはあいつを知らなかつたんでしょう？
ええ。でも、不思議なんです。だつて、あの人、知つてたんですよ。私が『

見上げてごらん夜の星を』が好きだつてこと。

』

③ 碧・宍戸が去る。
橋。鐘司が走つてくる。後から、プロキオンが走つてくる。

プロキオン 待つてください、辺見さん！

プロキオン 元の世界つて？

プロキオン 僕が生まれた世界だ。碧は僕と出会つて、結婚して、鈴花を産んだ。新婚旅

行には行けなかつたけど、温かい家庭を作つた。この世界の碧より、ずつと

幸せになつた。でも、その幸せは今日で終わりです。あなたが死んだから。

プロキオン いや、僕は死なない。
プロキオン でも、あなたは天国へ行くんでしょう？
プロキオン でも、あなたは天国へ行くわけには行かないんだ。碧を不幸にするわけには行かないんだ。碧だけじやない。鈴花も、お母さんも、叔母さんも、他のみんなも。
会社が潰れたつて、死ぬわけじやない。そこからまたやり直せばいいんだ。
それじや、あなたは地獄へ戻るんですね？
あれ、一度戻る。僕を生き返させてくれ。僕を生き返させてくれ。

プロキオン 所長！

そこへ、ベテルギウス・シリウスがやつてくる。

ベテルギウ いいでしよう。辺見さんを地上に戻しなさい。

そこへ、長門が走つてくる。

長門 長門 長門 長門 長門 長門

鐘司！
来るな！ 僕は地上に戻るんだ！

しつかりしろ、鐘司。

プロキオン
プロキオン

鐘司、おまえ、誰に向かつて、話をしてるんだ？
誰つて。（プロキオンを見る）

（首を横に振る）

（鐘司に）俺と一緒に帰ろう。碧が家で待つてる。

碧が家で？ 僕の家でか？

そうだよ。決まつてるだろう。

でも、この世界の碧は独身で、今でも実家に住んでて。
大分酔つ払つたらしいな。いいか、鐘司。おまえは十三年前に碧と結婚した。

そして、十年前に鈴花ちゃんが生まれた。
鈴花が生まれた？ でも。（ポケットに手を入れて、鈴を出す）これは。
それは鈴だよ。そんな物がなぜポケットに入つてるんだ？

長門司

鐘司

鈴花から預かったんだ。ぬいぐるみから取れたから、つけてくれって。（泣く）

長門

どうしたんだよ、鐘司。なぜ泣くんだ。

鐘司

メリーカリスマス。メリーカリスマスだ、長門！

鐘司

メリーカリスマス、鐘司。帰ろう。俺の家に。碧と鈴花にも、メリーカリスマスって言わないと。

鐘司・長門が走り去る。

ベテルギウ
プロキオン

お見事でした、プロキオン。
いや、褒めるなら、私じゃなくて、辺見さんを褒めるべきです。あの人が生まれなかつた世界があんなにひどいものになるなんて、私自身、予想していませんでした。

シリウス
ベルギウ

やつぱり、死んではいけない人だつたんですね。
だから、千人以上の人人が「助けてください」と祈つたんですよ。その祈りに応えることができてよかったです。それでは、私たちも辺見さんの生還を祝つて、乾杯しましようか。

所長はシリス、ウルギオングの用意をしない。この任務が成功したら、一級天使に昇格させてくださいって仰いましたよね？

ブシベブロキオング

肝心なことを忘れてませんか？

プロキオン・シリウス・ベテルギウスが去る。

①一九八三年十二月二十四日夜、辺見宅。鐘司・長門がやつてくる。

鐘司 碧！碧！

そこへ、友枝がやつてくる。

鐘司、おまえ、無事だつたんだね？
お母さん、メリ・クリスマス！（友枝を抱き締める）

何するんだよ。私はアメリカ人じやないよ。

いいじやないか。僕は今、とつても幸せなんだ。

おまえ、今までどこに行つてたんだい。
笛田橋にいました。橋の上でボーッと立つてたんです。

（鐘司に）まさか、川に身投げしようとしてたんじやないだろうね？

違うよ。ちよつと夢を見てたんだ。天使が三人出でくる夢を。

天使が三人？

友 鐘 友 鐘 友 鐘 友 鐘 友 鐘 友 鐘 友
枝 司 枝 司 枝 門 枝 司 枝 司 枝 司 枝

そんなことより、碧は？
人、五百万を失くしたんだつてね。おかげたよ、おまえを助けるためには全部、忠子さんから聞いた。あの

そこへ、忠子・二谷がやつてくる。

鐘司、お帰り。

叔母さん、メリークリスマス！（忠子を抱き締める）

何するんだよ、気持ち悪い。

まあまあ、そう言わないで。あれ？ 二谷さん。

ご自宅までお邪魔して、申し訳ありません。しかし、私はあなたをずっと待つていたんですよ。

僕を？

あなたは五百万が見つかったら、すぐに持っていくと言った。それが午後五時のことです。今は午後十一時。六時間もあれば、見つけ出すことができた

しよう。さあ、ここに出てください。

申し訳なけれど、金はありません。

そう言うだろうと思つていました。忠子さんの話によると、五百万はどこかに消えてしまつたそうですね。しかし、脱税した人間は、大抵、消えた、盗まれたと言うんです。僕は脱税なんかしてません。

私が信じると思いますか？ これ以上、嘘を続けるなら、私は警察に通報しなければなりません。

そこへ、碧・川地がやつてくる。川地が大きな籠を持っている。中にはたくさんの金が入つている。

碧鐘司

碧鐘司

碧鐘司

碧鐘司

鐘司

ゆか
り
鐘司
ゆか
り
ゆか
り

あなた、無事だつたのね？
お帰り、碧。その金は？
この町の人たちが寄付してくれたの。これ、全部。
(鐘司に)君は碧さんに感謝すべきだぞ。碧さんはこの籠を持って、知り合
いの家を一軒一軒回つたんだ。「辺見鐘司を助けてください」つて。
(鐘司に)皆さん、快く出してくれた。砂尻の人なんか、一人残らず。
(鐘司に)さすがに百万は無理だが、私も少々出させてもらつた。
メリ一・クリスマス、川地さん！(川地を抱き締める)
おいおい、抱き締めるなら、私じゃなくて、碧さんにしなさい。
(鐘司に)俺もちよつとだけ協力させてくれ。(籠に金を入れて)おつと、
俺は抱き締めなくていいぞ。(長門を抱き締める)

そこへ、ゆかりがやつてくる。

辺見先輩。
ゆかり君、なぜ君がここへ？
碧さんの募金の話、今、町中で噂になつてますよ。それで、私も協力させて
もらおうと思つて。
気持ちちはうれしいけど、このことを堀田さんが知つたら。
構いません。辺見先輩は私にとつて、大切な人です。その人が困つてゐるのに、
黙つて見過ごすわけには行きません。(籠に金を入れる)

鐘司碧鐘

(碧に)いいかな?
どうぞ。
メリ・クリスマス、ゆかり君! (ゆかりを抱き締める)

そこへ、雪也・洋代がやつてくる。

お兄さん!

：：雪也。雪也! (雪也を抱き締める)

メリ・クリスマス、お兄さん。
でも、なぜおまえがここにいるんだ。洋代さんは今、船の上にいるつて。
ついさっきまでいたんだよ。デッキでワインを飲んでたら、空からヘリコプターが舞い降りてきて、それに洋代が乗ってたんだ。
(鐘司に)お義姉さんから事情を聞いて、すぐにヘリコプターをチャーターしたんです。東京から笛田まで、一時間もかかりませんでしたよ。

（雪也に）俺のために駆けつけてくれたのか。
お兄さんは僕の命の恩人だからね。洋代。

これ、使つてください。小切手で申し訳ないんですけど。(小切手を差し出す) 鐘
(受け取つて) 五百万?
何も言わずに受け取つてください。私たちの感謝の気持ちです。
メリ・クリスマス、洋代さん! (洋代を抱き締める)

そこへ、鈴花がやつてくる。

鐘 鈴 鐘 鈴 鐘 鈴
碧 花 司 花 司 花

二 鐘 二 鐘 二 鐘
谷 司 谷 司 谷

友 鐘 碧 鐘 忠 鐘 二 鐘
枝 司 子 司 谷 司

みんなが乾杯の用意をする。

お母さん、この騒ぎは何？

？

。

鈴花、あなた、寝たんじやなかつたの？
お客様が来たのかと思つて、着替えてきたの。
メリ・クリスマス、鈴花！（鈴花を抱き締める）

お父さん、もう怒つてないの？
さつきは済まなかつたな。でも、お父さんはもう大丈夫だ。二谷さん、遅くなりました。五百万です。（籠を差し出す）

確かに。
これで、脱税の容疑は晴れましたか？
ええ。あ、ちよつと待つてください。ご迷惑でなかつたら、私にも出させて
ください。（籠に金を入れる）

ありがとうございます。

あの、メリ・クリスマスは？

メリ・クリスマス、二谷さん！（二谷を抱き締める）

鐘司、これで会社は大丈夫だね？
ああ。今日だけじゃない。これから先、何が起きても、絶対に乗り切つてみ
せる。
碧、ありがとう。本当にありがとう。（碧を抱き締める）
あ、皆さん、乾杯をしますから、グラスを持つてください。

鐘 鈴 鐘 鈴
鐘 司 花 司

お父さん、ぬいぐるみに鈴はつけてくれた？

ごめん、まだだつた。乾杯が終わつたら、つけるから。（ポケットから鈴を

取り出して、下に落とす）

あ、鈴が落ちた。（鈴を拾つて、リンと鳴らす）

（ポケットから紙を出して）この紙は何だ？

（読む）「辺見鐘司様、羽をありがとう。プロキオン」

お札を言うのはこつちの方だ。メリーカリスマス、プロキオン！

みんながグラスで乾杯をする。バス停で、天使たちも乾杯をしていている。プロキオンの背中には羽がついている。その羽に、祝福の雪が降り注ぐ。

^
幕
v